

Sun Java™ System Application Server Standard および Enterprise Edition リリース ノート

バージョン 7 2004Q2 Update 6

Part No. 820-3704

このリリースノートには、Sun Java™ System Application Server Standard および Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 6 のリリース時における重要な情報が含まれています。本書には、拡張機能、インストール時の注意、既知の問題、および最近見つかったその他の問題点が記載されています。Sun Java System Application Server 7 をご使用になる前に、このリリースノートと関連マニュアルをお読みください。

このリリースノートには、次の内容が含まれています。

- [リリースノートの改訂履歴](#)
- [新機能](#)
- [プラットフォームの概要](#)
- [必須の Solaris パッチ](#)
- [アップグレードオプション](#)
- [移行ツールの使い方](#)
- [Sun ONE Studio 5 Standard Edition Update 1](#)
- [その他の要件と制限事項](#)
- [マニュアルの参照方法](#)
- [解決された問題](#)
- [既知の問題と制限事項](#)
- [再配布可能なファイル](#)
- [問題の報告およびフィードバックの方法](#)
- [補足情報](#)

リリースノートの改訂履歴

この節では、Sun Java System Application Server 7 Standard Edition および Enterprise Edition 製品の初期リリース後に、リリースノートで変更が加えられた箇所について示します。

改訂日付	変更の詳細
2007 年 10 月	Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Standard Edition および Enterprise Edition の Update 6 リリースにおける既知の問題と制限事項の節を更新
2007 年 7 月	Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Standard Edition および Enterprise Edition の Update 6 リリース
2006 年 12 月	Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Standard Edition および Enterprise Edition の Update 5 リリース
2005 年 11 月	Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Standard Edition および Enterprise Edition の Update 4 リリース
2005 年 4 月	Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Standard Edition および Enterprise Edition の Update 3 リリース
2005 年 1 月	Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Standard Edition および Enterprise Edition の Update 2 リリース
2004 年 9 月	Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Standard Edition および Enterprise Edition の Update 1 リリース
2004 年 5 月	Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Standard Edition および Enterprise Edition の初版リリース

新機能

Sun Java System Application Server 7 Standard Edition および Enterprise Edition 2004Q2 Update 6 は、広い範囲にわたるアプリケーションサービスと Web サービスを展開するのに適した、高性能の J2EE プラットフォームを提供します。Update 6 リリース版には次の変更が加えられています。

- J2SE 1.4.2_13
JVM バージョンは 1.4.2_13 にアップグレードされています。
- Application Server 用 JWS DP 1.5.1 プラグイン

Sun Java System Application Server Standard および Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 6 には、Java Web Services Developer Pack v1.5.1 プラグインを使用できます。このプラグインは、次の URL からダウンロードできます。

<http://www.sun.com/download/products.xml?id=432b5f8e>

プラットフォームの概要

この節では Sun Java System Application Server Standard Edition および Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 6 でサポートされるプラットフォームコンポーネントについて説明します。

詳細は次のとおりです。

- [オペレーティングシステムと配布のタイプ](#)
- [システム要件](#)
- [JDBC ドライバとデータベース](#)
- [Web サーバー](#)
- [ソフトウェアパッケージ](#)
- [ブラウザ](#)

オペレーティングシステムと配布のタイプ

次の表に、Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Update 6 でサポートされるオペレーティングシステムとその配布タイプを示します。

表 1 サポートされるオペレーティングシステムと配布のタイプ

プラットフォーム	オペレーティングシステムのバージョン	配布のタイプ	Application Server 7 2004Q2 Update 6 Edition
Solaris SPARC®	Solaris 8 Update 7、Solaris 9 Update 6、Solaris 10 ¹	ファイルベース とパッケージ ベース ²	Standard Edition およ び Enterprise Edition
Solaris x86	Solaris 9 Update 4、Solaris 10	ファイルベース とパッケージ ベース	Standard Edition およ び Enterprise Edition
Linux x86 ³	Red Hat Advanced Server 2.1 Update 3、 Red Hat Advanced Server 3	ファイルベース と RPM ベース	Standard Edition およ び Enterprise Edition
Microsoft Windows ⁴	Windows 2000 Server Service Pack 2 Windows 2000 Advanced Server Service Pack 2 Windows 2000 Professional Service Pack 2 Windows Server 2003 Windows XP Professional	ファイルベース	Standard Edition およ び Enterprise Edition

¹Solaris 10 では、ファイルベースとパッケージベースの両方のインストールがサポートされています。グローバルゾーンのみがサポートされています。ローカルゾーンとローカルな散在するルートゾーンはサポートされていません。

²パッケージベースおよび RPM ベースの配布をインストールするには、スーパーユーザー権限が必要です。

³Red Hat Advanced Server 2.1 では、HADB は ext2 ファイルシステムのデバイスのみをサポートします。

⁴Microsoft Windows XP Professional で使用できるのは Standard Edition のみです。

システム要件

Sun Java System Application Server 7 Standard および Enterprise Edition 2004Q2 Update 6 の要件を次の表にまとめます。

表 2 Sun Java System Application Server のプラットフォーム要件

オペレーティングシステム	アーキテクチャー	最小メモリー	推奨メモリー	最小ディスク容量	推奨ディスク容量
Sun Solaris 8 SPARC、9 SPARC、または 10 SPARC 版	32 ビット / 64 ビット ⁴	256M バイト 1.5G バイト (HADB を同じ場所に配置する場合)	1024M バイト 2G バイト (HADB を同じ場所に配置する場合)	250M バイトの空き領域	500M バイトの空き領域
Solaris 9 および 10 の x86 版	32 ビット				
Red Hat Enterprise Linux 2.1、3					
Windows 2000 Server Service Pack 2 Windows 2000 Advanced Server Service Pack 2 Windows 2000 Professional Service Pack 2 Windows Server 2003 Windows XP Professional	x 86 32 ビット				

⁴ 32/64 ビットは、サポートされる OS を示します。Sun Java System Application Server は、32 ビットアプリケーションです。

- UNIX では、オペレーティングシステムのバージョンを `uname` コマンドで確認できます。ディスク容量は `df` コマンドで確認できます。
- Solaris では、`/usr/bin/perl` の下にあるシステム全体の `perl` インスタンスが、パスに存在することを確認してください。デフォルトでインストールされている `perl` が見つからないと、Application Server のインストールに失敗します。
- 64 ビットモードの Microsoft Windows または Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムバージョンでは HADB はサポートされていません。Solaris (x86) では、HADB は 32 ビットモードのオペレーティングシステムでしかテストされていません。
- HADB は、共有メモリーセグメントを作成して接続する場合に、ISM (Intimate Shared Memory) (`SHM_SHARE_MMU` フラグ) を使用します。このフラグを使用すると、共有メモリーセグメントが基本的に物理メモリー内にロックされ、ページアウトされなくなります。そのため、HADB データベースの共有メモリーが物理メモリー内にロックされるので、ローエンドコンピュータ上のインストールに影響する可能性が高くなります。Application Server と HADB を同じ場所に配置する場合は、推奨される容量のメモリーがあることを確認してください。

JDBC ドライバとデータベース

Sun Java System Application Server Standard Edition および Enterprise Edition は、対応する JDBC ドライバを持つ、どの DBMS との接続もサポートするように設計されています。Sun がテストし、J2EE 準拠のデータベースの設定に使用できることが確認されたコンポーネントを次の表に示します。

表 3 サポートされる JDBC ドライバ

JDBC ベンダー	JDBC ドライバのタイプ	サポートされるデータベースサーバー
PointBase 4.2	Type 4	PointBase Network Server 4.2
JConnect 5.5	Type 4	Sybase ASE 12.5
DataDirect 3.2	Type 4	MS SQL Server 2000 Service Pack 1
DataDirect 3.2	Type 4	Oracle 8.1.7
DataDirect 3.2	Type 4	Oracle 9.2.0.1
Oracle 9.2.0.3	Type 2 (OCI)	Oracle 9.2.0.3+ w/RAC
Oracle 10.1.0.2	Type 4 および Type 2 (OCI)	Oracle 10g リリース 1 (10.1.0.2.0)
IBM	Type 2	IBM DB2 8.1 Service Pack 3

ほかにも、JDBC ドライバ検証プログラムによるテストで J2EE 1.3 プラットフォームの JDBC 要件に適合することが確認されたドライバがあります。これらのドライバは Sun Java System Application Server との JDBC 接続に使用できます。Sun では、これらのドライバに対する製品サポートは提供していませんが、Sun Java System Application Server でのこれらのドライバの使用はサポートしています。

Web サーバー

この節では、Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Update 6 Standard Edition および Enterprise Edition 向けにサポートされる Web サーバーの一覧を示します。

表 4 サポートされる Web サーバー

Web サーバー	バージョン	オペレーティングシステム
Sun Java System Web サーバー	6.0 Service Pack 6	Solaris SPARC 8 および 9 Red Hat Enterprise Linux 2.1 x86 Windows 2000 Server Service Pack 2 Windows 2000 Advanced Server Service Pack 2 Windows 2000 Professional Service Pack 2 Windows Server 2003 Windows XP Professional HP-UX 11i
Sun Java System Web サーバー	6.1	Solaris SPARC 8 および 9、 Solaris 9 x86、 Red Hat Enterprise Linux 2.1 Windows 2000 Server Service Pack 2 Windows 2000 Advanced Server Service Pack 2 Windows 2000 Professional Service Pack 2 Windows Server 2003 Windows XP Professional HP-UX 11i
Apache Web Server	1.3.29, 2.0.49	Solaris SPARC 8 および 9、 Solaris 9 x86、 Red Hat Enterprise Linux 2.1、3、 Windows 2000 Server Service Pack 2 Windows 2000 Advanced Server Service Pack 2 Windows 2000 Professional Service Pack 2 HP-UX 11i
Microsoft IIS	5.0	Windows 2000 Server Service Pack 2 Windows 2000 Advanced Server Service Pack 2 Windows 2000 Professional Service Pack 2 Windows XP Professional および Windows Server 2003 (Application Server の Standard Edition のみ)

ソフトウェアパッケージ

この節では、Sun Java System Application Server Standard Edition および Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 6 向けにサポートされる関連ソフトウェアパッケージの一覧を示します。

表 5 Application Server とバンドルするコンポーネントのバージョン

コンポーネント	Application Server 7.0 Platform Edition および Standard Edition で使用するバージョン	Application Server 7.0 Enterprise Edition で使用するバージョン	Application Server 7 2004Q2 Standard Edition および Enterprise Edition で使用するバージョン	Application Server 7 2004Q2 Update 1 Standard Edition および Enterprise Edition で使用するバージョン	Application Server 7 2004Q2 Update 6 Standard Edition および Enterprise Edition で使用するバージョン
J2SE	1.4.0_02	1.4.1_03	1.4.2_04	1.4.2_05	1.4.2_13
PointBase	4.2	なし	4.2 (Standard Edition のみ)	4.2 (Standard Edition のみ)	4.2 (Standard Edition のみ)
Sun Java System Message Queue Standard Edition	3.0.1	3.0.1	3.5 Service Pack 1	3.5 Service Pack 1	3.5 Service Pack 2
JWSDP	1.0_01	1.0_01	1.0_01	1.0_01	1.5.1

⁵製品 CD に収録された JWSDP 1.4 共通コンポーネントを使用して、インストールされている JWSDP をアップグレードします。

ブラウザ

この節では、Sun Java System Application Server Standard Edition および Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 6 でサポートされるブラウザの一覧を示します。

表 6 サポートされるブラウザ

ブラウザ	バージョン
Mozilla	1.4, 1.7
Netscape Navigator	4.79, 6.2
Internet Explorer	5.5 Service Pack 2、 6.0

必須の Solaris パッチ

Solaris 8 システムには、次の URL の「パッチサポートポータル」から「推奨 & セキュリティーパッチ」に記載されている Sun 推奨パッチクラスタをインストールする必要があります。

<http://jp.sunsolve.sun.com/>

Solaris 8 システムには、パッチ番号 109326-06、108827-26、および 110934 のパッチをインストールしてください (全リビジョン対象。パッケージベースのインストールのみ)。これらの必須パッチは、インストーラによってチェックされます。これらのパッチがインストールされていないと、Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Update 6 ソフトウェアをインストールしたり実行したりすることはできません。最新の推奨パッチクラスタには、これらのパッチが最初から含まれています。

アップグレードオプション

この節では、次のトピックを取り上げます。

- [Sun Java System Application Server のアップグレード](#)
- [高可用性データベースのアップグレード](#)

Sun Java System Application Server のアップグレード

Sun Java System Application Server Standard Edition および Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 6 のインストーラにより、Application Server の旧バージョンから最新バージョンにアップグレードできます。各 Application Server は、サポートされているどのプラットフォームにインストールされたものも、同じプラットフォームおよびインストールタイプで、対応するバージョンにアップグレードできます。使用可能なアップグレードオプションを次の表に示します。

表 7 使用可能なアップグレードオプション

現在インストールされている製品	Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Update 6 にアップグレード可能
Sun ONE Application Server 7.0 Standard Edition、Update 1 - Update 9	Standard Edition Enterprise Edition
Sun ONE Application Server 7.0 Enterprise Edition	Enterprise Edition

表 7 使用可能なアップグレードオプション (続き)

現在インストールされている製品	Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Update 6 にアップグレード可能
Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Standard Edition および Enterprise Edition、Update 1、Update 2、Update 3、Update 4、Update 5	Standard Edition Enterprise Edition

- アップグレード後に、新しい設定ファイルとバックアップディレクトリ内にある元のファイルとを比較して、すべての変更点について確認する必要があります。元の設定ファイルに含まれているカスタム設定がアップグレード後の新しいファイルに継承されないことがあります。カスタム設定を含む古い設定ファイルと新しい設定ファイルとの同期がとれていない場合、サーバーの再起動時に問題が発生する可能性があります。アップグレードで影響を受けるファイルは次のとおりです。
 - `install_dir/config` 内のすべての *.conf ファイル
 - `server.xml` (管理およびサーバーインスタンス)
 - 管理およびサーバーインスタンスの `startserv` スクリプト
 - 管理およびサーバーインスタンスの `server.policy` ファイル
 - サーバーインスタンスの `sun-acc.xml` ファイル
 - `docroot/index.html` ファイル

Sun Java System Application Server 7 2004Q2 への手動での移行、およびアップグレードのその他の重要な前提条件については、『Sun Java System Application Server Standard and Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 2 Installation Guide』を参照してください。

高可用性データベースのアップグレード

この節では、次のトピックを取り上げます。

- [アップグレード前のタスク / データの移行](#)
- [アップグレード手順](#)
- [アップグレードのテスト](#)

アップグレード前のタスク / データの移行

アップグレードを始める前に、HADB 履歴ファイル、管理エージェント設定ファイル、ログファイルとリポジトリ、およびすべてのデータデバイスをインストールパスの外部に保管します。次の手順を使用して、管理リポジトリと設定ファイルを移動します。

1. すべての古い管理エージェントを停止し、HADB ノードは引き続き実行します。
2. 各ホスト上で、リポジトリディレクトリを新しい場所に移動します。
3. 各ホスト上で、dbconfig ディレクトリを新しい場所にコピーします。
4. 各ホスト上で、mgt.cfg ファイルを更新し、dbconfig とリポジトリディレクトリの正しいパスを設定します。
5. 更新した mgt.cfg ファイルを使用して管理エージェントを起動します。

注 Linux では、日本語バージョンの Application Server Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 2 を Application Server Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 6 にアップグレードする前に HADB 4.4.1-6 をアンインストールしてください。

Application Server Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 6 にバンドルされている HADB のバージョンは、4.4.1-7 です。

そのまま 4.4.1-7 にアップグレードした後に HADB 4.4.1-6 をアンインストールすると、すべての RPM 特に sun-hadb-i-4.4.1-6 が削除されない場合があります。

sun-hadb-i-4.4.1-6 を削除するには、次のコマンドを実行します。

```
rpm -e --nodeps sun-hadb-i-4.4.1-6
```

アップグレード手順

HADB Version 4.4.x から Version 4.4.2-7 にアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. 10 ページの「アップグレード前のタスク / データの移行」で説明したアップグレード前のタスクを実行します。
2. HADB Version 4.4.2-7 をすべての HADB ホストにインストールします。その際、Version 4.4.x のパスとは異なるパス、たとえば /opt/SUNWhadb/4.4.2-7 にインストールします。
3. hadbm クライアントホストと HADB ホストのクライアントホストが異なる場合は、HADB Version 4.4.2-7 を hadbm クライアントホストにインストールします。
4. すべての HADB ホスト上で実行されているすべての管理エージェントを停止します。
5. 古い設定ファイルで HADB 4.4.2-7 ソフトウェアを使用して、管理エージェントプロセスを開始します。残りの手順では、HADB 4.4.2-7 /bin ディレクトリにある hadbm コマンドを使用します。
6. 次のコマンドを使用して、管理ドメイン内にパッケージを登録します。デフォルトのパッケージ名は V4.4 になるので、同じ名前の既存のパッケージと競合しないように別の名前が必要になる場合があります。

```
hadbm registerpackage --packagepath=/opt/SUNWhadb/4.4.2-7 V4.4.2-7
```

7. `hadbm listpackages` コマンドを実行し、新しいパッケージがドメイン内に登録されたことを確認します。
8. 新しい **hadbm Version 4.4.2-7** を使用してデータベースを再起動します。デバイスと履歴ファイルを移動する必要がある場合は、次のように 1 回の操作でデバイスと履歴ファイルの新しいパスを設定して、オンラインアップグレードを実行します。

```
hadbm set packagename=V4.4.2-7,devicepath=new_devpath,histopath=new_histpath
```

デバイスと履歴ファイルがすでにインストールディレクトリの外部にある場合は、次のコマンドを実行します。このコマンドはノードの順次再起動のみを実行します。

```
hadbm set packagename=V4.4.2-7 database name
```

9. `hadbm status` コマンドを使用し、データベースのステータスが「**running**」になっていて、正常に機能し、クライアントのトランザクションを処理していることを確認します。
10. すべての機能が正常な場合は、前にインストールしたパッケージを後で削除できます。古いパッケージを登録解除する前に、古いパッケージへのすべての参照を `ma` リポジトリから削除します。この手順を実行しないと、「**package in use**」というメッセージが表示され、`hadbm unregisterpackage` が失敗します。ダミーの再設定操作 (たとえば `hadbm set connectiontrace=` 前と同じ値) を行うと、古いパッケージへのすべての参照が削除されます。
11. 次のコマンドを使用して、古いパッケージを登録解除します。

```
hadbm unregisterpackage [--hosts=host-list] old pacakge name
```
12. 古いインストールをファイルシステムから削除します。

アップグレードのテスト

Solaris 上でアップグレードが正常に行われたことをテストするには、次の手順を使用してアップグレードが正常に実行されたことを確認します。

1. 実行されているプロセスで新しいバイナリが使用されていることを確認します。すべての HADB ノードで次のものを確認します。

```
new path/bin/ma -v
```

```
new path/bin/hadbm -v
```
2. データベースが実行されているかどうかを確認します。次のコマンドは、「**running**」状態のすべての HADB ノードを表示します。

```
new path/bin/hadbm status -n
```
3. HADB を使用する製品のポインタが新しい HADB パスを指すように変更されていることを確認します。
4. HADB を使用する製品では、アップグレードテストを実行して、HADB のアップグレードも機能していることを確認できます。

5. オンラインアップグレードの後で、新しいバージョンが適切に機能していない場合は、以前のバージョンの HADB を使用する状態に戻します。ただし、管理エージェントリポジトリを変更した場合は、HADB 自体をダウングレードすることができますが、新しい管理エージェントが引き続き実行されている必要があります。

移行ツールの使い方

既存の J2EE アプリケーションがほかのベンダーのアプリケーションサーバー上で動作している場合、Sun Java System 移行ツールを使用して、そのアプリケーションを Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Update 6 リリースに移行し、動作させることができます。移行したアプリケーションは、変更を加えなくても Sun Java System Application Server 7 2004Q2 リリース上で動作します。しかし、高可用性という特徴を生かすためには、sun-ejb-jar.xml の DTD バージョンの配備記述子 (deployment descriptor) が sun-ejb-jar_2_0-0.dtd ではなく sun-ejb-jar_2_0-1.dtd を指すように変更してください。

Sun ONE Studio 5 Standard Edition Update 1

Sun Java System Application Server と組み合わせて使える Sun ONE Studio 5 Standard Edition 製品のマニュアルは次の場所にあります。

<http://docs.sun.com/app/docs/coll/790.4>

使用可能なその他の IDE には、Sun Java Studio 5 Standard Edition Update 1、Sun Java Studio Enterprise 6 2004Q1、および Borland 製 JBuilder X のようなサードパーティー IDE があります。

その他の要件と制限事項

- 管理 GUI 内の ACL アプレットは、Java と cookie が有効でないブラウザにロードされません。Application Server の管理 GUI にアクセスする前に、ブラウザの設定をチェックして、Java と cookie の両方が有効に設定されていることを確認してください。
- Application Server は NFS 上でサポートされません。
- Application Server 7.0 または 7.1 は J2SE 5.0 では動作しません。

NFS 上ではファイルベースのインストールが実行できますが、次の理由により、この構成で Application Server を実行することはお勧めしません。

- タイムスタンプのロックとファイルの同期の問題。
 - NFS 上の Application Server の安定性がネットワークの可用性と信頼性に左右される。
 - NFS が別の問題をもたらす。
 - NFS の問題が発生した場合にトラブルシューティングが困難である。Application Server があいまいなエラーメッセージを報告する。
- バグ ID 6275091 「Host ヘッダーにポート番号が含まれていない場合、getServerPort() は、ポート 80 を返します」の修正の有効化。

デフォルトでは、このバグの修正は無効になっています。修正を有効にするには、次の手順で説明するように、Web サーバーの設定ファイルと Application Server の server.xml ファイルを変更します。

- a. magnus.conf を変更します。

Init fn="load-modules" に対して、init-passthrough と service-passthrough を funcs に追加します。

次に例を示します。

```
funcs="init-passthrough,service-passthrough,name-trans-passthrough,change_hostheader_init,change_hostheader"
```

- b. 次のパラメータを指定して変更を有効にします。

```
Init fn="change_hostheader_init" enabled="true" debug="false"
```

デフォルトでは、このフラグは無効になっています。debug="true" を設定して、修正のログを有効にします。デフォルトでは、これは無効になっています。

enabled="false" を設定した場合、getServerPort を実行すると、これまでと同じようにポート番号 80 が返されます。enabled="true" を設定した場合、getServerPort を実行すると、server.xml で指定した Application Server のポートが返されます。

- c. obj.conf を変更します。

PathCheck fn="deny-existence" path="*/WEB-INF/* のあとで、次の変更を行います。

<Object name="lbplugin">内に Service fn="change_hostheader" を追加します。

d. server.xml を変更します。

server.xml で、servername の形式を servername="hostname:port" に変更します。

ホスト名は前と同じものであるべきです。ポート番号を Application Server インスタンスのポート番号に変更します。ここで指定したポート番号が、getServerPort() メソッドによって返されます。

場合によっては、servername 属性を server-name として指定することがあります。

- 高可用性に関する要件と制限事項

Sun Java System Application Server 高可用性コンポーネントを設定する前に、次の高可用性に関する要件を満たしている必要があります。

- HADB に必要な最小メモリーは 512M バイトで、Application Server とともに正常に機能させるために推奨されるメモリーは 1G バイトです。

Application Server と HADB を同じコンピュータにインストールする場合に必要な最小メモリーは 1.5G バイトで、推奨されるメモリーは 2G バイトです。

- HADB は IPv4 のみをサポートします。
- ネットワークは、UDP マルチキャスト用に設定する必要があります。
- create domain、extend domain、hadbm create、または hadbm addnodes コマンドで使用するホストでは動的 IP アドレス (DHCP) を使用しないでください。
- HADB を Red Hat Linux 3.0 上で実行する場合は、オペレーティングシステムによる過度のスワッピングの問題を避けるために、Update 4 をインストールする必要があります。バグ ID 6158393 を参照してください。
- 64 ビットモードの Microsoft Windows または Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムバージョンでは HADB はサポートされていません。
- HADB ファイルシステムのサポート: サポートされているいずれかのファイルシステムを使用するように HADB を設定する前に、いくつかの重要な項目について検討する必要があります。
- データデバイスとログファイルを保存するハードディスクドライブの書き込みキャッシュが無効になっていることを確認します。
- RedHat Linux では、IDE ディスク用に /sbin/hdparm ユーティリティーを使用します。
/sbin/hdparm -W0 /dev/hda コマンドは、ディスク hda の書き込みキャッシュを無効にします。
/sbin/hdparm -I device を使用して、ドライブに関する詳細なステータス情報を取得します。
SCSI ディスクの場合は、sdparm ユーティリティー (<http://sg.torque.net/sg/sdparm.html>) をダウンロードしてインストールする必要があります。
このユーティリティーは、デフォルトの RedHat Linux Advanced Server の配布には含まれていません。
これらのユーティリティーを誤って使用するとハードディスクドライブに障害が発生する可能性があるので注意して使用する必要があります。

- Solaris (SPARC または x86) では、`format -e` ユーティリティーを使用する必要があります。`-e` オプションを使用していることを確認してください。このオプションを使用しないと、コマンドメニューに「cache」エントリが表示されません。
- Windows では、デバイス マネージャを起動します。ハードディスクドライブを探し、そのプロパティを表示して、「ディスクのプロパティ」タブを選択します。チェックボックスは、書き込みキャッシュが有効かどうかを示します。

重要なインストールの前提条件およびトラブルシューティングのオプションの詳細については、『Sun Java System Application Server Standard and Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 2 Installation Guide』を参照してください。

マニュアルの参照方法

Sun Java System Application Server のマニュアルは、さまざまな方法で入手できます。

- マニュアル—Sun Java System Application Server のマニュアルとリリースノートは、次の URL から HTML 形式と印刷可能な PDF 形式で参照できます。
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/app.srv#hic>
- オンラインヘルプ—グラフィカルインタフェースの「ヘルプ」ボタンをクリックするとコンテンツヘルプウィンドウを起動できます。
- マニュアルページ—コマンド行にマニュアルページを表示するためには、MANPATH 環境変数にまず `install_dir/man` を追加する必要があります (Solaris アンバンドル版の場合のみ)。変数の設定後、コマンド行に `man command_name` を入力すると、Sun Java System Application Server コマンドのマニュアルページにアクセスできます。次に例を示します。

```
man asadmin
```


Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Update 6 のマニュアル

Sun Java System Application Server Standard Edition および Enterprise Edition 7 2004Q2 のマニュアルは、PDF 形式または HTML 形式のオンラインファイルでも入手できます。

次の表は、Sun Java System Application Server のマニュアルに記述されているタスクと概念を示しています。次のマニュアルは、Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Update 6 Standard Edition および Enterprise Edition のリリースに伴って改訂されています。入手可能なマニュアルの一覧は、<http://docs.sun.com/app/docs/prod/app.srv> を参照してください。

表 8 Sun Java System Application Server マニュアル

内容	参照するマニュアル
ソフトウェアおよびマニュアルについての最新情報が記載されています。サポート対象のハードウェア、オペレーティングシステム、JDK、および JDBC/RDBMS の詳細な表形式の概要などが含まれています。	『リリースノート』

解決された問題

次の表は、Sun Java System Application Server Standard Edition および Enterprise Edition 7 2004, Update 1, Update 2, Update 3, Update 4, Update 5, および Update 6 のリリースで解決された重要な問題の一覧を示しています。

表 9 解決された問題

バグ ID	説明
6546242	オープンカーソルの最大数を超過しています。
6371019	管理 GUI の「ファイルキャッシュを有効にする」オプションがデフォルトでチェックされていません。
6453440	ロードバランサプラグイン健全性検査を実行するとゾンビスレッドが作成されます。
6451701	LDAP 認証を使用した ACL が動作しません。
6459623	URL エンコードの使用の問題。
6438986	httpsrouting を true に設定した後にロードバランサプラグインが誤動作します。
6491181	CSS と images ディレクトリが原因で日本語バージョンの index.html が正しく表示されません。

表 9 解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
6432803	リスナーが正しくないため、負荷分散サブシステムの初期化が失敗します。
4775866	JavaMail サンプルの問題。
6543857	ウォッチドッグに使用する SJWS から AS7.x へのポート 4856895 がクラッシュします。
6532682	Apache ロードバランサプラグイン使用の応答がタイムアウトするまで、リダイレクトが完了しません。
4816663	stopserv が PID_FILE 値の場所を init.conf の PidLog 設定から取得しません。
6465923	DBMS を繰り返し再起動すると、回復不能な接続プールの問題が起きます。
6516230	トランザクションでコミットまたはロールバックが失敗すると、接続プールの問題が起きます。
6439570	管理コンソールからのドキュメントリンクが無効です。
6246582	アップグレード時に、デフォルトインスタンス <code>server1</code> が削除されていても、デフォルトインスタンスディレクトリ (<code>server1</code>) 内にサンプルディレクトリが再作成されます。
6568090	JSP ソースコード開示脆弱性。
6562167	Solaris x86 上の Application Server Standard Edition 7.1 ファイルベースのインストール環境でドメインを起動できません。
6528257	Sun Alert ID 102696 の修正。
6487022	ロードバランサプラグインが Cookie ヘッダーのコンマをセミコロンに置き換えます。
6374199	T2000 システム上の AS 7.1 用に JDK 1.4.2_10 以上を組み込む必要があります。
4751904	ConfigMQSeries.html の最上部のリンクが破損しています。
4771657	サンプルステートレス検査アプリケーションが、ステートレス Beans の代わりにステートフル Beans を使用します。
6556284	セッション維持型負荷分散がいずれかのホストで動作していません。
6544762	SSL エンドポイント使用時にロードバランサプラグインが原因で、CPU 使用量が増加します。
6557531	DaemonConfig::getSuggestedId() はビッグエンディアンまたはリトルエンディアン依存であり、x86 上では重複する値を返します。

既知の問題と制限事項

この節では、Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Update 6 Standard Edition および Enterprise Edition の既知の問題とその回避方法について説明します。

注	問題の説明にプラットフォームが明記されていない場合、その問題はすべてのプラットフォームに当てはまります。
---	--

この節は次の項目から構成されています。

- [インストールとアンインストール](#)
- [サーバーの起動とシャットダウン](#)
- [データベースドライバ](#)
- [ログ](#)
- [Web コンテナ](#)
- [Message Service とメッセージ駆動型 Beans](#)
- [JTS \(Java Transaction Service\)](#)
- [アプリケーションの配備](#)
- [ベリファイア](#)
- [ロードバランサ](#)
- [高可用性](#)
- [サーバーの管理](#)
- [サンプルアプリケーション](#)
- [ORB/IIOP リスナー](#)
- [マニュアル](#)

インストールとアンインストール

この節では、インストールとアンインストールに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
6602615	<p>ローカライズ版の Application Server 7.1 Update 5 から Application Server 7.1 Update 6 にアップグレードした後、アップグレードされたインスタンスは Soalaris 10 Update 3 以上での起動に失敗します。</p> <p>Solaris にバンドルされている Message Queue (MQ) のバージョンと、Application Server にバンドルされている Message Queue (MQ) のバージョンとの間に競合があります。</p> <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none">pkgrm コマンドで次の MQ パッケージを削除します。<ul style="list-style-type: none">基本パッケージ: SUNWiqdoc、SUNWiqfs、SUNWiqjx、SUNWiqr、SUNWiqu、SUNWiquc、SUNWiqum、および SUNWiqtpl日本語パッケージ: SUNWjiqu、SUNWjiquc中国語パッケージ: SUNWciqu、SUNWciquc対応する OS パンドルの基本、日本語、および中国語パッケージをインストールします。
6606419	<p>ローカライズ版の Application Server 7.1 Update 5 から Application Server 7.1 Update 6 へのアップグレードが失敗します。</p> <p>インストーラが SUNWhadb/4 ディレクトリの削除に失敗します。</p> <p>解決法</p> <p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">./setup を実行する前に、SUNWhadb/4 を削除します。すでに ./setup コマンドを一度実行してアップグレードに失敗している場合には、再び ./setup コマンドを実行します。
6606417	<p>ローカライズ版の Application Server Enterprise Edition 7.1 Update 5 から Application Server Enterprise Edition 7.1 Update 6 にアップグレードしても、SUNWhadb/4 シンボリックリンクが変更されません。</p> <p>解決法</p> <p>シンボリックリンクは 4.4.2-30 に変更されました。</p>

ID	要約
6606979	<p>ローカライズ版の Application Server Enterprise Edition 7.1 Update 6 にアップグレードすると、英語の <code>index.html</code> が表示されます。</p> <p>解決法</p> <p>次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. <code><AppServer_install_dir>/domains/domain1/server1/docroot</code> ディレクトリに移動します。2. ファイル名を <code>index.html</code> から <code>index.html_en</code> に変更します。3. <code>AppServer_install_dir/lib/install/templates/index.html</code> を <code>AppServer_install_dir/domains/domain1/server1/docroot</code> にコピーします。

ID	要約
6245916	<p>日本語および簡体字中国語のロケールでは、ローカライズ版 Application Server 7.1 Update 2 を Update 3、Update 4、または Update 6 にアップグレードすると、Update 2 のローカライズされた開始画面と index.html が表示されます。</p> <p>ローカライズ版の Application Server 7.1 Update 6 には、Application Server 7.1 Update 2 のローカライズされたファイルが含まれています。</p> <p>解決法</p> <p>Update 6 へのアップグレード後、次の場所にある英語版の開始画面とインデックスページを参照してください。</p> <p><i>Appserver_Install_Dir/docs/about.html</i></p> <p><i>Appserver_Install_Dir/lib/install/templates/index.html</i></p> <p>Sun Java System Application Server を登録するには、次の URL を使用します。</p> <p>日本語の場合： https://www.sun.com/software/product_registration?locale=ja_JP</p> <p>簡体字中国語の場合： https://www.sun.com/software/product_registration?locale=zh_CN</p> <p>古いローカライズ版ではなく、既存のドメインの最新の index.html (英語版) を表示するには、index.html を docroot フォルダにコピーします。</p> <p><i>Appserver_Install_Dir/lib/install/templates/index.html</i> を次の場所にコピーします。</p> <p><i>Appserver_domain_root/domains/domain1/admin-server/docroot</i></p> <p>新しいドメインを作成する前に、ローカライズされた index.html を英語版の index.html に置き換えます。</p> <p><i>Appserver_Install_Dir/lib/install/templates/index.html</i> を次の場所にコピーします。</p> <p><i>Appserver_Install_Dir/lib/install/templates/{ja,zh_CN}/index.html</i></p> <p>現在の日本語または簡体字中国語の index.html ファイルを必ずバックアップしておいてください。</p>
6222700	<p>日本語および簡体字中国語のロケールでは、ローカライズされた Application Server 7.1 Update 2 を Update 3、Update 4、または Update 6 にアップグレードすると、server1 インスタンスのデフォルトページが英語で表示されます。</p>

ID	要約
6245424	<p data-bbox="317 234 1318 303">ローカライズ版の Application Server Update 6 をアンインストールしても、ローカライズされたパッケージや RPM が残ったままになります。</p> <p data-bbox="317 312 392 347">解決法</p> <p data-bbox="317 355 1318 425">最初に、ローカライズされたパッケージや RPM を削除してから、アンインストールプログラムを実行します。パッケージベースの Solaris インストールでは、次の手順を実行します。</p> <ol data-bbox="317 434 678 468" style="list-style-type: none"> 1. 次のパッケージを削除します。 <pre data-bbox="317 477 1135 607">pkgrm SUNWjaspX SUNWjasdmo SUNWjiquc SUNWjiqu SUNWjaso pkgrm SUNWjjmail SUNWjjaf SUNWjasaco SUNWjascmo SUNWjaspX pkgrm SUNWcaspX SUNWcasdmo SUNWciquc SUNWciqu SUNWcaso pkgrm SUNWcjmail SUNWcjaf SUNWcasaco SUNWcascmo SUNWcaspX</pre> <ol data-bbox="317 616 1049 685" style="list-style-type: none"> 2. Application Server のアンインストールプログラムを実行します。 3. Application Server のインストールディレクトリを削除します。 <pre data-bbox="317 694 635 729">rm -rf Appserver_Install_Dir</pre> <p data-bbox="317 737 1006 772">RPM ベースの Linux インストールでは、次の手順を実行します。</p> <ol data-bbox="317 781 621 815" style="list-style-type: none"> 1. 次の PRM を削除します。 <pre data-bbox="317 824 878 1284">rpm -e SUNWjasaco-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWjascmo-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWjasdmo-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWjaso-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWjaspX-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWjjaf-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWjjmail-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWasaco-zh_CN-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWascmo-zh_CN-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWasdmo-zh_CN-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWaso-zh_CN-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWaspX-zh_CN-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWjaf-zh_CN-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWjmail-zh_CN-7.1.0-02.src.rpm</pre> <ol data-bbox="317 1293 1049 1362" style="list-style-type: none"> 2. Application Server のアンインストールプログラムを実行します。 3. Application Server のインストールディレクトリを削除します。 <pre data-bbox="317 1371 635 1406">rm -rf Appserver_Install_Dir</pre> <p data-bbox="317 1414 892 1449">Windows インストールでは、次の手順を実行します。</p> <ol data-bbox="317 1458 1049 1545" style="list-style-type: none"> 1. Application Server のアンインストールプログラムを実行します。 2. <i>Appserver_Install_Dir</i> を削除します。

ID	要約
6208875	<p>アップグレードのインストールに失敗して、java.io.FileNotFoundException が発生します。</p> <p>Solaris SPARC、Solaris x86、および Linux でファイルベースの HADB のアップグレードを実行すると、次のような特定のシナリオで問題が発生します。</p> <p>インストールに失敗して、次の例外が発生します。</p> <pre>java.io.FileNotFoundException: /sun/appserver7/./SUNWhadb/4 (Is a directory)</pre> <p>アップグレードシナリオ: 7.1RTM/7.1ER1/7.1UR1 から 7.1UR2 へのファイルベースのアップグレード。</p> <p>解決法</p> <p><i>file-based-installing-directory</i>/SUNWhadb/4 ソフトリンクの名前を、SUNWhadb/3 などの別の名前に変更します。アップグレードを再起動します。</p>
6217112	<p>Microsoft Windows プラットフォームで増分インストールが動作しません。</p> <p>Application Server とともにサンプルアプリケーションをインストールすることが可能です。これらのアプリケーションは増分インストールできません。</p> <p>解決法</p> <p>インストール開始時にサンプルアプリケーションをインストールするように指定します。増分インストール時には、サンプルアプリケーションオプションを選択しないでください。</p>
5006942	<p>Microsoft Windows 上で、アップグレードの後は、生成されたサービスの起動タイプがデフォルトで「自動」に設定されます。</p> <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none">1. Microsoft Windows サービスを開きます。2. サービスの起動タイプを「手動」に変更します。
6217097	<p>アップグレード用の Application Server バイナリを root 以外のユーザーでダウンロードしていない場合、root 以外のユーザーで実行するファイルベースのアップグレードは失敗します。</p> <p>解決法</p> <p>ダウンロードされるバイナリは、root 以外のユーザーが所有する必要があります。ダウンロードされたアーカイブは、インストールまたはアップグレードを実行するユーザーによって解凍される必要があります。そうでない場合、JDK がアップグレードされる間にアクセス権の問題が発生することがわかっています。</p>

サーバーの起動とシャットダウン

この節では、起動とシャットダウンに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4693581	<p>Application Server の起動時に、IMQ ブローカで障害が発生し、「IOException: Not Enough Space」というメッセージが表示されます。</p> <p>このエラーは、Application Server と IMQ ブローカが同時に起動するときに発生します。appservd プロセスは、新規プロセスをフォークして iMQ ブローカを起動しようしますが、十分なスワップ容量がないと処理に失敗します。</p> <p>解決法</p> <p>Application Server を起動する前に IMQ ブローカプロセスを起動します。次に例を示します。<code>appserver_install_dir/imq/bin/imqbrokerd -name appserver_instance_name -port jms-service port -silent</code></p>

ID	要約
4762420	<p>ファイアウォールの規則により、Application Server の起動に失敗することがあります。</p> <p>パーソナルファイアウォールをインストールしている場合に発生する問題です。Application Server がインストールされているマシンに厳密なファイアウォール規則を適用すると、管理サーバーおよびアプリケーションサーバーインスタンスの起動時に障害が発生することがあります。管理サーバーおよびアプリケーションサーバーインスタンスは、Application Server 環境でローカル接続を確立しようとします。これらの接続はローカルのホストではなくシステムのホスト名を使ってポートにアクセスしようとするので、ローカルのファイアウォールの規則に従ってブロックされることがあります。</p> <p>セキュリティ上何の問題もない処理に対して、ローカルのファイアウォールが誤った警告を生成することもあります。たとえば、Application Server がポート 3700 で TCP 接続を試行しているのに、「Portal of Doom Trojan」攻撃または同様の攻撃を受けたというメッセージが表示される場合があります。このような問題は、Application Server がローカル通信に使用するポート番号と、既知の一般的な攻撃に使用されるポート番号が重複している場合に発生します。ポート番号が重複しているかどうかの判断基準は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">管理ログファイルとサーバーインスタンスログファイルに、接続例外と次のメッセージが書き込まれています。CORE3186: Failed to set configuration <p>解決法</p> <p>Application Server からローカルシステム上のポートに接続できるように、ファイアウォールポリシーを変更します。</p> <p>攻撃について誤った警告が生成されないようにするには、攻撃関連の規則を変更するか、Application Server が使用するポート番号を変更します。</p> <p>管理サーバーおよびアプリケーションサーバーインスタンスが使用するポート番号は、Application Server のインストール先の次の場所にある server.xml ファイルで確認できます。</p> <pre>domain_config_dir/domain1/admin-server/config/server.xml domain_config_dir/domain1/server1/config/server.xml</pre> <p>domain_config_dir はサーバーの初期設定を行なった場所です。次に例を示します。 Solaris 9 の統合インストールの場合: /var/appserver/domains/... Solaris 8、9 のアンバンドル版のインストールの場合: /var/opt/SUNWappserver7/domains/...</p> <p><iiop-listener> 要素と <jms-service> 要素のポート設定を確認します。これらのポート番号を未使用のポート番号に変更するか、ローカルマシン上のクライアントから同じマシン上のこれらのポートへ接続できるようにファイアウォールポリシーを書き換えます。</p> <p>5003245 ポートの設定を変更して再起動すると、サーバーが 2 つのポートに対して待機状態となります。</p> <p>解決法</p> <p>ポート番号を変更した後、asadmin コマンドを使ってサーバーを停止 (asadmin stop-instance)、起動 (asadmin start-instance) します。</p>

データベースドライバ

この節では、データベースドライバに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
2082209/ 5022904	<p>DB2 サーバーに、DB2 Type II ドライバのアイドルタイムアウト後に大きくなる接続があります。</p> <p>解決法</p> <p>SteadyPoolSize と MaxPoolSize を同じ数字に設定し、アイドル接続タイムアウトを 0 (ゼロ) に設定します。これによりアイドル接続のタイムアウトが無効になり、ユーザーはすべての接続を使用できるようになります。</p>
4700531	<p>Solaris 上で、JDK 1.4 を使用しているとき Oracle JDBC ドライバのエラーが発生します。</p> <p>これは、Oracle 用の新しい JDBC ドライバが、JDK 1.4 と連携して機能する場合に問題となります。Oracle 9.0.1 データベースと ojdbc14.jar が併用されているために、エラーが発生します。Oracle 9.0.1.3 データベースを実行している 32 ビット版 Solaris マシンにパッチを適用すれば、問題を修正できます。</p> <p>解決法</p> <p>Oracle の Web サイトからバグ ID 2199718 のパッチを入手し、サーバーに適用します。次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none">1. Oracle の Web サイトに移動します。2. 「patches (パッチ)」 ボタンをクリックします。3. パッチ ID フィールドに「2199718」と入力します。4. 32 ビット版 Solaris の OS パッチをクリックします。次に、Metalink.oracle.com に移動します。5. パッチをクリックします。6. パッチ ID 2199718 を入力します。7. 32 ビット版 Solaris の OS パッチをクリックします。

ID	要約
4991065	<p>J2EE 1.3 に準拠させるために、Oracle JDBC ドライバを適切に設定する必要があります。</p> <p>解決法</p> <p>Type 2 および Type 4 のドライバを次のように設定してください。</p> <ol style="list-style-type: none">9.2.0.3 以降の JDBC を使用します。Oracle データベースのパラメータファイル (init.ora) 中に compatible=9.0.0.0.0 以上を加えます。ojdbc14.jar ファイルを使用します。Application Server の設定を変更して JVM のプロパティを次のように定義します。 -Doracle.jdbc.J2EE13Compliant=true <p>さらに、Type-2 のドライバに関しては、Application Server をスタートした環境に ORACLE_HOME と LD_LIBRARY_PATH (これには \$ORACLE_HOME/lib が含まれていなければならない) を定義する必要があります。たとえば、これらを asenv.conf に追加して、確実にエクスポートします。</p>

ログ

ID	要約
5014017	<p>アプリケーションクライアントのログサービスが正常に動作しません。</p> <p>ファイル属性のデフォルト値が機能しません。</p> <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none">ログディレクトリを作成します。新たに作成したログディレクトリへの完全なパスを sun-acc.xml ファイルに記述します。 <p>コンソールにログを出力している場合、ログレベルはその設定 (FINE、FINEST 等) にかかわらず、「INFO」レベルとなります。</p> <p>『Administration Guide to Clients』では、ログが acc_dir/logs/client.log にあると記されていますが、正常に動作させるためには、ログディレクトリを作成し、そのフルパス名を sun-acc.xml ファイルに記述する必要があります。</p>

Web コンテナ

この節では、Web コンテナに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
6183117	<p>pdf/xls ファイル用のサーブレットフィルタを使用している場合、HTTP ヘッダーが正しくありません。</p> <p>default-web.xml にデフォルトの mime-type マッピングがありません。必要な mime-types を default-web.xml に追加します。</p> <p>解決法</p> <p>xls を提供するインスタンスの default-web.xml に次の mime-type 定義を追加します。</p> <pre><mime-mapping> <extension>xls</extension> <mime-type>application/vnd.ms-excel</mime-type> </mime-mapping></pre> <p>同様に、ほかのファイルの種類の特定の mime-type 定義を default-web.xml ファイルに追加します。</p>
6308777/ 6324326	<p>サーブレットコンテナ UTF-8 URI のマッピングに脆弱性があります。</p> <p>UTF-8 形式の URI で文字を指定することによって、JSP の ACL ベースの保護を迂回することができます。</p> <p>解決法</p> <p>URI 中のワイルドカードを受け付けないように ACL を変更したことを確認します。</p>
5089201/ 5001994	<p>getRequestURI() が、返すべきでない、エンコードされていない値を返します。</p> <p>この問題を修正すると、getRequestURI() を呼び出し、データが返されるときに URI が自動的にデコードされる、Portal Server 6.3 などの古い NSAPI のクライアントに問題が発生します。</p> <p>そのため、古い NSAPI クライアントとの下位互換性を維持するために、新しい JVM オプションを追加して古い NSAPI の動作に戻し、Portal Server が正常に機能できるようにしています。</p> <p>解決法</p> <p>Portal Server が稼動するコンピュータで JVM オプション -DJ2EEDecodeURI を有効にして、getRequestURI() 呼び出しで Cookie-less モードとほかのすべての機能を許可します。</p>

ID	要約
4951476	<p>JWSDP 1.2(1.3) がインストールされていると、<code>javax.ejb.EJBException: org/dom4j/Element</code> エラーがスローされます。</p> <p>解決法</p> <p>sever.xml ファイルの <code>server-classpath</code> に <code>dom4j-full.jar</code> を追加します。このファイルは http://dom4j.org からダウンロードできます。このファイルのエントリは、<code>server-classpath</code> 内の <code>appserv-jstl.jar</code> エントリの前に置く必要があります。</p>
4997770	<p>HTTP 404 のエラーメッセージが、依然として「Sun ONE Application Server」と表示されます。</p> <p>「Sun ONE Application Server」を「Sun Java System Application Server」と読み替えてください。</p>

Message Service とメッセージ駆動型 Beans

この節では、Java Message Service (JMS)、Sun Java System Application Server Standard Edition および Enterprise Edition、およびメッセージ駆動型 Beans の既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
6184426	<p>負荷テスト中に、HP-UX11.11 上で <code>ConnectException</code> エラーが発生します。</p> <p>OS レベルまたは IMQ レベルでの HP-UX TCP-IP パラメータの設定が必要です。</p> <p>解決法</p> <p>IMQ レベルで、次の変更を行います。</p> <pre>imq.portmapper.backlog=1000 imq.authentication.client.response.timeout=360 imq.jms.tcp.backlog=3000 imq.jms.max_threads=5000</pre>

ID	要約
4683029	<p>MQ Solaris スクリプト内の <code>-javahome</code> フラグは、値に空白文字が含まれていると正しく機能しません。</p> <p>Sun ONE Message Queue のコマンド行ユーティリティーには、代替 Java ランタイムを指定する <code>-javahome</code> オプションが用意されています。このオプションを使用する際、Java ランタイムのパスに空白文字を含めることはできません。空白文字を含むパスの例を示します。</p> <pre>/work/java 1.4</pre> <p>この問題は、Application Server インスタンスの起動時に発生します。Sun ONE Application Server インスタンスを起動すると、デフォルトで、対応する Sun ONE Message Queue ブローカインスタンスが起動します。このブローカは、Application Server と同じ Java ランタイムを必ず使用するよう、常に <code>-javahome</code> コマンド行オプションを使って起動します。Application Server 用に設定された Java ランタイム (ブローカでも使用可能) のパスに空白文字が含まれていると、ブローカの起動に失敗します。このため、Application Server インスタンスの起動も失敗します。</p> <p>解決法</p> <p>Application Server の Java ランタイムのパスに空白文字が含まれていないことを確認してください。</p>

JTS (Java Transaction Service)

この節では、JTS (Java Transaction Service) の既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
6218460	<p>JTS タイムアウトに十分に余裕がある場合でも、トランザクションタイムアウトのためにトランザクションが失敗する可能性があります。</p> <p>解決法</p> <p>Application Server の Transaction Service の <code>xaresource-txn-timeout</code> プロパティを設定し、Transaction Service 用に設定されているトランザクションタイムアウト (秒単位) と同じ値を設定します。</p>

復旧

JDBC ドライバの復旧に関する既知の問題があります。Sun Java System Application Server は、これらの問題に対していくつかの回避方法を用意しています。デフォルトでは、ユーザーが明示的に指定しないかぎり、これらの回避方法は使用されません。

- Oracle JDBC ドライバの問題 - Oracle XA Resource 実装の回復メソッドは、入力フラグとは関係なく、繰り返し同じ未確定 Xid のセットを戻します。XA 仕様によると、トランザクションマネージャーは、最初に TMSTARTSCAN を使って XAResource.recover を呼び出したあと、TMNOFLAGS を使って、Xid が戻されなくなるまで繰り返し XAResource.recover を呼び出します。

Application Server は、Oracle XA Resource の確認メソッドの問題に対する回避方法も用意しています。この回避方法を適用するには、server.xml ファイルの transaction-service サブ要素に次のプロパティーを追加します。oracle-xa-recovery-workaround

プロパティー値は必ず true に設定します。

- Sybase JConnect 5.2 ドライバの問題 - JConnect 5.2 ドライバには、JConnect 5.5 では解決されている既知の問題があります。JConnect 5.2 ドライバを使用する場合は、server.xml ファイルの transaction-service サブ要素に次のプロパティーを追加して、復旧を有効にしてください。

sybase-xa-recovery-workaround

プロパティー値は必ず true に設定します。

トランザクション

server.xml ファイルでは、XA 接続と非 XA 接続の区別に res-type を使用します。これにより、データを駆動するデータソースの設定が識別されます。たとえば、Datadirect ドライバでは、同じデータソースを XA または非 XA として使用できます。

デフォルトでは、データソースは非 XA です。connpool 要素によりデータソースをトランザクションに対して XA として動作させるには、res-type が必要です。connpool 要素を正常に機能させてトランザクションに加えるには、server.xml ファイルに次の res-type 属性を追加します。

res-type="javax.sql.XADataSource"

アプリケーションの配備

この節では、アプリケーションの配備に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
6502888	<p>Application Server 7.1 で、アプリケーションを root 以外のユーザーとして実行中のサーバーインスタンスに配備すると、<server-instance>/generated のファイルの所有者が root ユーザーになります。</p> <p>解決法</p> <p>アクセス権を手動で変更する必要があります。</p>

ID	要約
6078271	<p>ファイル長の問題が原因で、Windows への EAR の配備が失敗します。</p> <p>NTFS 以外のファイルシステムで稼動している Windows では、そのファイルシステムのファイル名およびパス長の制限が適用されます。</p> <p>解決法</p> <p>Windows を NTFS ファイルシステムで稼動してください。</p>
6223279	<p>jndi-name が見つからない場合、ejb-ref-name から jndi-name へのマッピングが正しく実行されません。</p> <p>ejb アプリケーションを配備する場合、XML 配備記述子 (sun-ejb-jar.xml) には、各 EJB 参照に対する jndi-name エントリが含まれている必要があります。次に例を示します。</p> <pre><ejb-ref> <ejb-ref-name>ejb/package_name.ejb_name</ejb-ref-name> <jndi-name>ejb/package_name.ejb_name</jndi-name> </ejb-ref></pre> <p>jndi-name エントリが見つからない場合、エラー表示されずに配備されますが、JNDI 検索によって EJB を見つけることができないため、アプリケーションは正しく動作しません。</p> <p>解決法</p> <p>JNDI 名が配備記述子内に存在することを確認します。アプリケーション実行時にこの問題が発生しないようにするには、配備の前に「ベリファイアを実行」チェックボックスを選択します。これによって、JNDI 名が見つからないことによる問題が強調されます。</p>
4725147	<p>配備する仮想サーバーを選択できません。</p> <p>この場合は、仮想サーバー 2 台をまったく同じように設定し、一方をホスト、もう一方をリスナーにします。アプリケーションが 2 台目の仮想サーバーだけに配備されている場合、この仮想サーバーにはアクセスできません。これは、host:port の組み合わせで 1 台目の仮想サーバーが指定されているからです。</p> <p>解決法</p> <p>仮想サーバーのホスト名と元のホスト名が同じにならないようにしてください。特に、同じ HTTP リスナーを使用する場合には注意が必要です。</p>
4994366	<p>ejb-local-ref と ejb-link の配備エラー</p> <p>解決法</p> <p>ejb-local-ref には ejb-link が必要です。したがって、ejb-local-ref を使用する時は ejb-link の値を指定してください。</p>

ベリファイア

この節では、ベリファイアに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4742545	<p>スタンドアロンベリファイアから EJB クラスが見つからないというエラーが報告されます。</p> <p>ベリファイアは、「EJB クラスが見つかりません。」というメッセージを表示して、障害の発生したテストがあることを示します。EJB JAR ファイルによって使用されるエンタープライズ Bean が、同一の EAR アプリケーション内の別の EJB JAR ファイル内にあるほかのエンタープライズ Bean を参照する場合、テスト時に障害が発生します。コネクタ (RAR) に依存する EAR ファイルを検証しようとした場合も、障害メッセージが表示されます。これは、RAR バンドルを、RAR バンドルファイルに依存するエンタープライズ Bean が格納されている EAR ファイル内にパッケージ化する必要がないからです。障害 (コネクタ関連の障害を除く) を報告するのは、スタンドアロンベリファイアだけです。配備コマンドや管理インタフェースによって呼び出されたベリファイアでは、この障害は報告されません。</p> <p>解決法</p> <p>アプリケーション EAR のパッケージ化が正しいことを確認します。ユーティリティ JAR ファイルを使用している場合は、EAR ファイル内にパッケージ化されます。参照エラーを解決するには、asadmin または管理インタフェースを使って配備バックエンドからベリファイアを呼び出します。コネクタ関連の障害が発生する場合は、ベリファイアのクラスパスに、必要なクラスを持つ JAR ファイルを配置します。install_root/bin/verifier[.bat] ファイルを開き、JVM_CLASSPATH 変数の末尾に LOCAL_CLASSPATH 変数を追加します。LOCAL_CLASSPATH 変数にローカルでクラスを追加したあと、ベリファイアを実行します。</p>

ロードバランサ

この節では、ロードバランサに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
6422893	<p data-bbox="239 270 1215 357">loadbalancer.xml で https-routing プロパティが true に設定されている場合でも、Application Server 7.1 UR5 ロードバランサプラグインが HTTPS リスナーを認識しません。 解決法</p> <p data-bbox="239 383 1162 406">Application Server 7.1 を新たにインストールしている場合は、次の手順を実行します。</p> <ol data-bbox="239 432 1225 961" style="list-style-type: none"> 1. 製品インストール時にロードバランサプラグインの選択を解除して、Application Server 7.1 UR5 をロードバランサプラグインなしでインストールします。 2. http://www.sun.com/software/javaenterprisesystem/index.jsp から Java Enterprise System (JES) 3 または JES4 Application Server をインストールします。 3. http://sunsolve.sun.com から JES component Patch 10 をダウンロードします。 <ul data-bbox="289 597 1193 831" style="list-style-type: none"> • パッケージベースのパッチの場合、パッチ ID は 119166-16 (Solaris Sparc)、119167-16 (Solaris x86)、119168-16 (Linux) です。 • ファイルベースのパッチの場合、パッチ ID (Enterprise Edition) は 119169-08 (Solaris Sparc)、119170-08 (Solaris x86)、119171-08 (Linux)、119172-08 (Windows) です。 • ファイルベースのパッチの場合、パッチ ID (Platform Editon) は 119173-08 (Solaris Sparc)、119174-08 (Solaris x86)、119175-08 (Linux)、119176-08 (Windows) です。 4. インストールを開始します。コンポーネントリストから、ロードバランサプラグインのみを選択して、指定した Web Server の場所へロードバランサプラグインのインストールを続行します。 5. このプラグインを使用するために Application Server 7.1 UR5 と Web Server を設定します。 <p data-bbox="239 979 1215 1001">すでに Application Server 7.1 がインストールされている場合には、次の手順を実行します。</p> <ol data-bbox="239 1027 1225 1565" style="list-style-type: none"> 1. libpassthrough.so ファイル、および Application Server 7.1 UR5 ロードバランサプラグインの一部としてインストールされた LBPluginDefault_root.res や LBPlugin_root.res などのその他に関連するすべてのファイルの名前を変更します。 2. http://www.sun.com/software/javaenterprisesystem/index.jsp から Java Enterprise System (JES) 3 または JES4 Application Server をインストールします。 3. http://sunsolve.sun.com から JES component Patch 10 をダウンロードします。 <ul data-bbox="289 1218 1193 1453" style="list-style-type: none"> • パッケージベースのパッチの場合、パッチ ID は 119166-16 (Solaris Sparc)、119167-16 (Solaris x86)、119168-16 (Linux) です。 • ファイルベースのパッチの場合、パッチ ID (Enterprise Edition) は 119169-08 (Solaris Sparc)、119170-08 (Solaris x86)、119171-08 (Linux)、119172-08 (Windows) です。 • ファイルベースのパッチの場合、パッチ ID (Platform Editon) は 119173-08 (Solaris Sparc)、119174-08 (Solaris x86)、119175-08 (Linux)、119176-08 (Windows) です。 4. インストールを開始します。コンポーネントリストから、ロードバランサプラグインのみを選択して、指定した Web Server の場所へロードバランサのインストールを続行します。 5. このプラグインを使用するために Application Server 7.1 UR5 と Web Server を設定します。

ID	要約
6338687	<p>ロードバランサプラグインは 8K より大きな URL/URI を処理できません。</p> <p>ロードバランサプラグインによって Application Server に転送される場合は、8K より大きな URL/URI を作成しないでください。</p>
6262746	<p>Solaris 10 (SPARC および x86) にインストールされた Apache Web Server 上のロードバランサプラグインの設定はサポートされていません。</p> <p>解決法</p> <ul style="list-style-type: none">• Solaris 8 または Solaris 9 上では Apache を使用し、Solaris 10 上では Application Server を使用してください。 <p>また、</p> <ul style="list-style-type: none">• Solaris10 上では Sun Java System Web Server を使用してください。
6155134	<p>Web サーバーを起動する場合に手動でパスを設定する必要があります。</p> <p>IIS または Apache 用のロードバランサプラグインを Microsoft Windows にインストールした後で、Application Server のパスを Path 環境変数に付け加えます。</p> <ul style="list-style-type: none">• 「スタート」->「設定」->「コントロールパネル」->「システム」->「詳細設定」->「環境変数」->「システム環境変数」->「パス」の順に移動し、appserver_install_dir\bin を追加します。• マシンを再起動する必要があります。

ID	要約
4761151, 4825429, 4981545	<p>ロードバランサのプラグインを経由して SSL と非 SSL の要求を断続的に送っていると、中間形式と基本認証で失敗します。「502 Bad Gateway」というエラーメッセージが表示されます。デフォルトの設定では、プロキシからコンテナへの接続性が維持されません。</p> <p>Application Server の配備および配備取消、キープアライブのタイムアウト、ロードバランサ接続プールでの接続が古くなったことなどにより、ロードバランサが Application Server への接続を持続できなくなります。この問題が発生すると、ロードバランサからの要求は失敗することがあり、エラーページが表示されます。この問題は通常、配備 / 配備取消やその他の設定変更が頻繁に行われたり、テストされたりする、開発環境で発生します。</p> <p>解決法</p> <p>appserver でのキープアライブのタイムアウトを 0 に設定してください。</p> <p>Web ベースの管理インタフェースを使って、次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 管理コンソールを起動します。 2. 「HTTP サーバー」->「チューニング」を選択します。 3. ページの最後のテキストボックス、「HTTP 持続的接続のタイムアウト」フィールドに 0 を入力します。 4. 変更を適用して appserver を再起動します。 <p>コマンド行インタフェースを使用する場合は、次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. appserver の init.conf に KeepAliveTimeout 0 という行を追加します。 2. asadmin reconfig コマンドを実行します。 3. appserver を再起動します。
4962735	<p>Linux の場合に、ロードバランサプラグインおよび sec_db ファイルをインストールすると Apache Web Server 1.3.27 が起動しません。</p> <p>解決法</p> <p>次の行を /src/MakeFile の「End of automatically generated section,」の後、「OBJS=¥」の直前に挿入してください。また、アプリケーションサーバーのライブラリが特定の場所にインストールされていることを確認してください。</p> <pre>LIBS+= -licuuc -licui18n -lnspr4 -lpthread -lxml -lc -lsupport -lnsprwrap -lns-httpd40 LDFLAGS+= -L/space/SJSAS/installations/lib.</pre> <p>各変数の意味は次のとおりです。/space/SJSAS/installations はアプリケーションサーバーがインストールされている場所です。詳細は、『Sun Java System Application Server Administration Guide』の付録、「Compiling Apache Web Server」を参照してください。</p>

ID	要約
5018537	<p>フェイルオーバーが実行されている時、Identity Server/Application Server の統合で「Service unavailable」というエラーが表示されます。</p> <p>Loadbalancer.xml は Web モジュールのコンテキストルートに「/」を使用しています。フェイルオーバーの後にはコンテキストルートが存在しないため、「Default」が新しい JROUTE cookie のパスに指定されます。結果として、ブラウザ側では 2 つの JROUTE cookie が存在することになります。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 古い JROUTE cookie は「/」をパスとする失敗したインスタンスを指します。2. 新しい JROUTE cookie は「/Default」をパスとする新しいインスタンスを指します。 <p>ブラウザは常に古い cookie (1) を使おうとするため、結果として nd failover のリダイレクトとなり、ブラウザ自身に障害が起こることがあります。</p> <p>解決法</p> <p>すべての Web モジュールに特定のコンテキストルートを指定します。次に例を示します。</p> <pre><web-module context-root="appl" enabled="true" disable-timeout-in-minutes="60" error-url="appl-lberror.html" /> <web-module context-root="app2" enabled="true" disable-timeout-in-minutes="60" error-url="app2-lberror.html" /></pre> <p>フェイルオーバーの後、JROUTE は「/appl」をパスとして取得し、正常に動作します。</p>
5007720	<p>Web モジュール中で invalid value for error-url に対するログメッセージが不適切です。</p> <p>loadbalancer.xml の web-module タグの error-url 属性が、次のように無効な値に設定された場合、</p> <pre><web-module context-root="appl" enabled="true" disable-timeout-in-minutes="60" error-url="abc"/></pre> <p>ログメッセージは次のように表示されます。</p> <pre>warning (11113): reports: lb.configurator: XML_VALIDATOR_WARNING: Invalid format for the error-url sun-http-lberror.</pre> <p>しかし、正しくは次のような表示でなければなりません。</p> <pre>warning (20015): reports: lb.configurator: XML_VALIDATOR_WARNING: Invalid format for the error-url abc</pre>

高可用性

この節では、高可用性に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
6301842	<p>Windows 上で <code>ma -r</code> コマンドを実行しても、管理エージェントがサービスの登録を解除できず、エラーメッセージ「<code>Could not identify program</code>」が出力されて失敗することがあります。</p> <p>解決法</p> <p>Windows コマンドプロンプトウィンドウを起動して、<code>sc stop HADBMgrAgent</code> を実行後、<code>sc delete HADBMgrAgent</code> を実行します。<code>ma -i -n servicename</code> コマンドを使用してサービスをインストールおよび起動した場合、<code>sc</code> コマンドを実行するときに <i>servicename</i> を指定してください。</p>
6293912	<p>管理エージェントが特別な用途のインタフェースを使用するべきではありません。</p> <p>解決法</p> <p>複数のインタフェースを備えたホスト上で <code>hadbm create</code> を実行する場合、常に DDN 表記を使用して IP アドレスを明示的に指定してください。</p>
6291562	<p>Windows で再アセンブリが失敗します。</p> <p>特定の負荷がかかっている特定の設定の Windows プラットフォームでは、オペレーティングシステム内で多数の再アセンブリが失敗する場合があります。この問題は、20 を超えるノードを使用する設定で、複数のテーブルスキャン (<code>select *</code>) を同時に実行する場合に発生します。このために、トランザクションが頻繁に異常終了したり、修復と復旧に長い時間がかかり、システムのさまざまな部分で頻繁にタイムアウトが発生したりします。</p> <p>解決法</p> <p>この問題を解決するには、Windows のレジストリ変数 <code>HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Tcpip\Parameters</code> をデフォルト値である 100 より大きい値に設定する必要があります。この値を 0x1000 (4096) に増やすことをお勧めします。詳細については、Microsoft サポートページの記事 811003 (http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;811003) を参照してください。</p>
6275319	<p>root 以外のユーザーが HADB を管理できません。</p> <p>root として Java Enterprise System とともにインストールすると、root 以外のユーザーは HADB を管理できません。</p> <p>解決法</p> <p>HADB を管理するには常に root としてログインします。</p>

ID	要約
6275103	<p>セッションオブジェクトがタイムアウトになって MA で削除された場合に、hadbm 管理エージェントが不適切なエラーメッセージを返します。</p> <p>場合によっては、サーバー上のリソースの競合の問題のために管理クライアントが切断され、再接続すると、誤解を招くエラーメッセージ「hadbm:Error 22184: A password is required to connect to the management agent」が返されることがあります。</p> <p>解決法</p> <p>サーバー上でリソースの問題がないか確認し、適切な処理 (リソースの追加など) を実行して、操作を再試行します。</p>
6273681	<p>グローバルゾーンとローカルゾーンの管理エージェントが干渉する場合があります。</p> <p>Solaris 10 では、グローバルゾーンで ma-initd スクリプトを使用して管理エージェントを停止すると、ローカルゾーンの管理エージェントも停止します。</p> <p>解決法</p> <p>グローバルゾーンとローカルゾーンの両方に管理エージェントをインストールしないようにします。</p>
6271063	<p>インストールまたは削除操作時に symlink が保持されます。</p> <p>HADB c パッケージ (Solaris: SUNWhadb, Linux: sun-hadb-c) バージョン <m.n.u-p> のインストールまたは削除時に、既存の symlink /opt/SUNWhadb/<m> が処理されません。このために、孤立した symlink が存在する可能性があります。</p> <p>解決法</p> <p>インストール前またはアンインストール後に使用しない symlink を削除します。</p>
6265419	<p>HADB Version 4.4.2.5 から HADB Version 4.4.1.7 にダウングレードすると、管理エージェントがさまざまなエラーコードで失敗します。</p> <p>以前の HADB のバージョンにダウングレードすると、管理エージェントがさまざまなエラーコードで失敗する場合があります。</p> <p>解決法</p> <p>リポジトリオブジェクトに変更を加えた場合、HADB データベースをダウングレードできても、管理エージェントをダウンロードできないことがあります。ダウングレードした後で、最新バージョンの HADB の管理エージェントを使用する必要があります。</p>
6262824	<p>hadbm は、大文字を含むパスワードをサポートしていません。</p> <p>パスワードが hadb に保存されるときに、パスワード中の大文字は小文字に変換されます。</p> <p>解決法</p> <p>大文字を含むパスワードを使用しないようにします。</p>

ID	要約
6173886, 6253132	<p>hadbm createdomain が失敗する可能性があります。</p> <p>複数のネットワークインタフェースを使用してホスト上で管理エージェントを実行した場合、すべてのネットワークインタフェースが同じサブネット上に存在しないと createdomain コマンドが失敗する可能性があります。</p> <p>hadbm:Error 22020: The management agents could not establish a domain, please check that the hosts can communicate with UDP multicast.</p> <p>管理エージェントは、その他の設定が行われていなければ UDP マルチキャストの「最初」のインタフェースを使用します (「最初」であることは <code>java.net.NetworkInterface.getNetworkInterfaces()</code> から返される結果によって定義される)。</p> <p>解決法</p> <p>もっともお勧めする解決法は、管理エージェントに使用するサブネットを指示することです (設定ファイル内で <code>ma.server.mainternal.interfaces</code> を使用。たとえば、<code>ma.server.mainternal.interfaces=10.11.100.0</code>)。または、サブネット間でルーター設定して、マルチキャストパケットの経路を設定することもできます (管理エージェントはマルチキャストアドレス <code>228.8.8.8</code> を使用)。</p> <p>管理エージェントを新しく設定して再試行する前に、管理エージェントのリポジトリをクリーンアップする必要があります。ドメイン内のすべてのエージェントを停止させ、リポジトリディレクトリ内のすべてのファイルとディレクトリを削除します (管理エージェントの設定ファイル内の <code>repository.dr.path</code> によって識別される)。新しい設定ファイルを使用して再起動する前に、この操作をすべてのホスト上で実行する必要があります。</p>
6249685	<p>Linux 上では、clu_trans_srv プロセスを中断することができません。</p> <p>Red Hat Enterprise Linux 3.0 の 64 ビットバージョンには、非同期の I/O を実行すると <code>clu_trans_srv</code> プロセスが連続 (中断不可) モードになってしまうというバグがあります。つまり、<code>kill -9</code> が機能しないので、オペレーティングシステムを再起動する必要があります。</p> <p>解決法</p> <p>Red Hat Enterprise Linux 3.0 の 32 ビットバージョンを使用してください。</p>

ID	要約
6230792, 6230415	<p data-bbox="319 244 1172 269">HADB の起動、停止、再設定に失敗したり、ハングアップすることがあります。</p> <p data-bbox="319 291 1300 373">Solaris 10 を実行している AMD Opteron™ システムでは、<code>hadbm</code> コマンドを使用して HADB を起動、停止、再設定すると、次のいずれかのエラーによって失敗したり、ハングアップしたりすることがあります。</p> <p data-bbox="319 395 1186 420"><code>hadbm:Error 22009: The command issued had no progress in the last 300 seconds.</code></p> <p data-bbox="319 442 1258 494"><code>HADB-E-21070: The operation did not complete within the time limit, but has not been cancelled and may complete at a later time.</code></p> <p data-bbox="319 517 1300 598">この現象は、<code>clu_noman_srv</code> プロセスが使用するファイル (nomandev) の読み取り / 書き込みの実行中に矛盾があると発生します。この問題は、HADB 履歴ファイルで次のメッセージを探すことで検出できます。</p> <p data-bbox="319 621 1265 645"><code>n:3 NSUP INF 2005-02-11 18:00:33.844 p:731 Child process noman3 733 does not respond.</code></p> <p data-bbox="319 668 1243 692"><code>n:3 NSUP INF 2005-02-11 18:00:33.844 p:731 Have not heard from it in 104.537454 sec</code></p> <p data-bbox="319 715 1229 739"><code>n:3 NSUP INF 2005-02-11 18:00:33.844 p:731 Child process noman3 733 did not start.</code></p> <p data-bbox="319 762 391 786">解決法</p> <p data-bbox="319 808 1208 833">この問題を解決するには、影響を受けるノードに対して次のコマンドを実行します。</p> <p data-bbox="319 855 879 880"><code>hadbm restartnode --level=clear <i>nodeno dbname</i></code></p> <p data-bbox="319 902 1293 954">ノードのすべてのデバイスが再初期化されます。再初期化の前にノードを停止する必要があるかもしれません。</p>
なし	<p data-bbox="319 977 765 1001">HADB データベースの作成に失敗します。</p> <p data-bbox="319 1024 1293 1076">次のエラーによって、新しいデータベースの作成に失敗します。このエラーは、使用可能な共有メモリーセグメントが足りないことを示しています。</p> <p data-bbox="319 1098 1258 1150"><code>HADB-E-21054: System resource is unavailable : HADB-S-05512: Attaching shared memory segment with key "xxxxx" failed, OS status=24 OS error message: Too many open files.</code></p> <p data-bbox="319 1173 391 1197">解決法</p> <p data-bbox="319 1220 1293 1302">共有メモリーが設定されていて、その設定が機能していることを確認します。特に、Solaris 8 では、ファイル <code>/etc/system</code> を調べて、変数 <code>shmsys:shminfo_shmseg</code> の値が、ホストあたりのノード数の少なくとも 6 倍になっていることを確認します。</p>

ID	要約
6232140	<p>管理エージェントの終了時に、「IPV6_MULTICAST_IF failed」例外が発生します。</p> <p>複数の NIC カードを装着した Solaris 8 環境のホスト上で、IPv6 対応と IPv4 対応のカードが混在していると、管理エージェントの終了時に「IPV6_MULTICAST_IF failed」例外が発生する場合があります。根本的な原因については、バグ ID 4418866 および 4418865 を参照してください。</p> <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none">環境変数 <code>_JAVA_OPTIONS</code> を次のように設定します。 <pre>\$> export _JAVA_OPTIONS="-Djava.net.preferIPv4Stack=true"</pre>または、Solaris 9 を使用します。
6171832/ 6172138	<p>無効なセッションが削除されないため、HADB パフォーマンスが低下したり、データデバイスの空き領域がなくなったりします。</p> <p>解決法</p> <p>無効なセッションを効率的に削除するには、<code>sun-ejb-jar.xml</code> ファイルを変更して、<code>cache-idle-timeout-in-seconds</code> の値を <code>removal-timeout-in-seconds</code> の値よりも小さく設定します。</p> <p><code>cache-idle-timeout-in-seconds</code> の値が <code>removal-timeout-in-seconds</code> の値と等しいかまたは上回る場合、HADB では古いセッションが削除されないことが予想されます。</p> <p>これらのプロパティを推奨値に設定した後も、無効なセッションの問題が引き続き発生する場合は、製品サポートに連絡してください。</p>
6171994	<p>security.policy ファイル内の不適切なアクセス権により、起動がハングアップします。</p> <p>説明</p> <p>security.policy ファイル内にある <code>hadb-jdbc</code> のアクセス権が不適切です。</p> <p>解決法</p> <p>起動時に断続的なハングアップが発生する場合、security.policy ファイルに推奨される次のアクセス権を追加します。</p> <p>デフォルトで含まれているアクセス権：</p> <pre>permission java.net.SocketPermission "*", "connect";</pre> <p>推奨されるアクセス権：</p> <pre>permission java.net.SocketPermission "*", "connect accept,listen,resolve";</pre>

ID	要約
5042351	<p>新規ノードの追加後に作成された新規テーブルが、追加ノードに配信されません。</p> <p>説明</p> <p>データベースインスタンスを作成し、それにノードを追加すると、データベース作成以後に追加されたノード上で、新しく作成されたテーブルが断片化されません。hadbm addnodes がテーブルを再断片化した場合に、addnodes の前に作成されたテーブルだけが追加されたノードを使用することができます。</p> <p>これは、create table が、データベースの起動時、つまり hadbm create の実行時に作成される sysnode node グループを使用するからです。</p> <p>解決法</p> <p>新規テーブルが追加されたあとで hadbm refragment を実行するか、<i>all_nodes</i> ノードグループに新規テーブルを作成します。</p>
6158393	<p>HADB を RedHat AS 3.0 と同じ場所に配置すると負荷が高い場合に問題が発生します。</p> <p>説明</p> <p>HADB は、Application Server と同じ場所に配置された RedHat Linux AS 3.0 上で稼働します。トランザクションが異常終了して、パフォーマンスに影響する可能性があります。これは、オペレーティングシステムによって過剰なスワップが行われるからです。</p> <p>解決法</p> <p>この問題は、RedHat Linux AS 3.0 Update 4 に対して HADB をテストした時点では解決されていたようです。</p>

ID	要約
6214601	<p>hadbm が sysroot スキーマのユーザーテーブルを検索するため、Addnodes が失敗し、「表が見つかりません」というエラーが表示されます。</p> <p>説明</p> <p>hadbm refragment コマンドが次のエラーで失敗します。</p> <pre>hadbm:Error 22042: Database could not be refragmented.Please retry with hadbm refragment command to refragment the database..Caused by: HADB-E-11701: *Table singlesignon not found*</pre> <p>解決法</p> <p>clusql を次のように使用して、Application Server テーブルを手動で再断片化します。</p> <pre>> clusql server:port list> system+dbpassword specified at database create> SQL: set autocommit on; SQL: set schema haschema; SQL: alter table sessionattribute nodegroup all_nodes; SQL: alter table singlesignon nodegroup all_nodes; SQL: alter table statefulsessionbean nodegroup all_nodes; SQL: alter table sessionheader nodegroup all_nodes; SQL: alter table blobsessions nodegroup all_nodes; SQL: quit;</pre>
6159633	<p>configure-ha-cluster がハングアップすることがあります。</p> <p>説明</p> <p>asadmin configure-ha-cluster コマンドを使用して複数のホストに高可用性のクラスタを作成または設定する場合に、コマンドがハングアップします。HADB 管理エージェントまたは Application Server からは、例外がスローされません。</p> <p>解決法</p> <p>HADB は、データベースクラスタ内のノード全体におよび異機種混在パスをサポートしていません。HADB サーバーのインストールディレクトリと設定ディレクトリが、参加ホスト全体で同じになっていることを確認してください。</p> <p>さらに、コマンドをもう 1 度実行する前に、リポジトリディレクトリをクリアしてください。</p>

ID	要約
6197822	<p>hadbm set によって、データベースインスタンスが回復の困難な状態になります。</p> <p>説明</p> <p>このシナリオでは、一部のデータベース設定変数の変更を試みた場合に <code>hadbm set</code> コマンドが失敗します。たとえば、<code>DataBufferPoolSize</code> をより大きなサイズに設定しようとする、ノード 0 での共有メモリー不足のために失敗します。次に、<code>hadbm set</code> コマンドは、ノード 0 のデータベースを停止状態に、ノード 1 のデータベースを実行状態にします。<code>hadbm set</code> を使用してプールサイズを元の値にリセットしようとする、失敗して次のエラーメッセージが表示されます。</p> <p>22073: The operation requires restart of node 1. Its mirror node is currently not available.Use <code>hadbm status --nodes</code> to see the status of the nodes.</p> <p>この場合、<code>hadbm startnode 0</code> も失敗します。</p> <p>解決法</p> <p>データベースを停止して、<code>hadbm set</code> を使用して元の値を復元し、データベースを再起動します。</p>
6200133	<p>configure-ha-cluster での障害。HADB インスタンスの作成が失敗します。</p> <p>説明</p> <p>HADB クラスタの作成を試みると、失敗して次のメッセージが表示されます。</p> <p>HADB-E-00208: The transaction was aborted.</p> <p>SQL ディクショナリ表に格納されている起動トランザクションは異常終了します。</p> <p>解決法</p> <p><code>configure-ha-cluster</code> コマンドをもう一度実行します。<code>hadbm create</code> コマンドを実行して前述のエラーメッセージが表示された場合は、再実行します。</p>
5091349	<p>異機種インストールパスがサポートされていません。</p> <p>同じ名前の同じソフトウェアパッケージを、異なる場所の異なるホストで登録することはできません。</p> <p>解決法</p> <p>HADB は、データベースクラスタ内のノード全体におよび異機種混在パスをサポートしていません。HADB サーバーのインストールディレクトリと設定ディレクトリが、参加ホスト全体で同じになっていることを確認してください。</p>

ID	要約
5091280	<p>hadbm set はリソースの可用性 (ディスクとメモリーの空き容量) をチェックしません。</p> <p>シナリオ</p> <p>hadbm set を使用して、デバイスまたはバッファのサイズを大きくしています。</p> <p>説明</p> <p>管理システムは、データベースを作成する場合やノードを追加する場合にリソースの可用性をチェックしますが、デバイスまたはメインメモリーバッファのサイズを変更する場合には、十分なリソースが使用可能かどうかをチェックしません。</p> <p>解決法</p> <p>devicesize または buffersize 設定属性の値を大きくする前に、すべてのホストにディスクとメモリーの十分な空き容量があることを確認してください。</p>
4855623	<p>ノードのホストのいずれかがダウンしていると、hadbm stop コマンドが終了しない。</p> <p>ネットワーク上の問題により HADB ノードが shutdown メッセージを受け取らない場合、hadbm stop コマンドはデータベースを完全に停止できないことがあります。通常は、hadbm コマンドを完了するのに 60 秒以上かかります。この場合、hadbm stop/delete コマンドが動作しません。停止するノードを指定する必要があります。</p> <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none">1. “hadbm status --nodes” コマンドを使用して、引き続き有効になっているノードを確認します。2. 一部実行中の各ノードに対して、「hadbm stopnode -f node_number」を実行します。
4861337	<p>hadm stoppdb の実行中にアクティブデータノードに障害が起こると、hadm startpdb コマンドの実行に失敗します。</p> <p>データベースを起動できない場合、hadbm status コマンドは non-operational を返します。</p> <p>解決法</p> <p>この問題を解決するには、次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none">1. hadbm clear --fast を実行します。 <p>このコマンドにより、システム内の各マシンについて address in use というタイプの障害が報告された場合は、ログインして clu_ で始まるすべてのプロセスを強制終了します。</p> <ol style="list-style-type: none">2. hadbm clear --fast コマンドをもう一度実行します。 <p>これにより、すべてのデータが消え、データベースが再起動します。</p> <ol style="list-style-type: none">3. セッションストアを作成し直します。 <p>セッションストア作成の詳細は、『Sun Java System Application Server Administration Guide』を参照してください。</p>

ID	要約
4958827	<p data-bbox="319 241 829 269">子プロセスのトランザクションが応答しません。</p> <p data-bbox="319 288 1305 460">ホストマシンが複数の HADB を収納し、すべてのノードがそれぞれのデバイスを同一のディスクに設置すると、ディスク I/O がボトルネックになります。HADB プロセスは非同期 I/O を待機しているため、ノード監視プログラムの heartbeat check には応答しません。したがって、ノード監視プログラムはこのプロセスを再起動することになります。この問題は、どのようなオペレーティングシステムでも起こる可能性があります。今のところ、Red Hat Linux AS 2.1 および 3 で確認されています。</p> <p data-bbox="319 479 391 506">解決法</p> <p data-bbox="319 526 1305 579">同一のマシンに存在する、異なる HADB ノードのデバイスに対して、別々のディスクを使用します。</p>
なし	<p data-bbox="319 602 715 630">ダブルネットワークでの HADB 設定</p> <p data-bbox="319 649 1305 789">2 つのサブネット上にダブルネットワークで設定された HADB は、Solaris SPARC 上では正常に動作します。しかし、一部のハードウェアプラットフォームでのオペレーティングシステムまたはネットワークドライバの問題で、Solaris x86 および Linux プラットフォームではダブルネットワークを適切に処理できないことが確認されました。これにより、HADB に次のような問題が発生します。</p> <ul data-bbox="319 808 1305 1117" style="list-style-type: none">• Linux では、HADB プロセスでメッセージ送信がブロックされることがあります。これにより、HADB ノードが再起動し、ネットワークパーティションが発生します。• Solaris x86 では、ネットワークに障害が発生すると、何らかの問題によってほかのネットワークインタフェースへの切り替えが禁止される場合があります。この問題は常時発生するわけではありませんが、ネットワークは 1 つよりも 2 つ使用することを推奨します。このような問題は、Solaris 10 では部分的に解決されました。• Trunking はサポートされていません。• HADB は、Microsoft Windows 2003 上でのダブルネットワークをサポートしていません (バグ ID 5103186)。

サーバーの管理

この節では、次のトピックを取り上げます。

- [コマンド行インタフェース \(CLI\)](#)
- [管理インフラストラクチャー](#)
- [管理インタフェース](#)

コマンド行インタフェース (CLI)

この節では、コマンド行インタフェースに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4676889	<p>シングルモードで実行する CLI コマンドの文字数が 256 文字を超える場合、オーバーフローが発生します。</p> <p>UNIX® では、シングルモードで実行する CLI コマンドの文字数が 256 文字を超える場合、コマンドの実行に失敗し、「コマンドが見つかりません」というエラーが表示されます。</p> <p>CLI の制限ではありません。</p> <p>次に例を示します。</p> <pre>create-jdbc-connection-pool --instance server4 --datasourceuser admin --datasourcepassword adminadmin --datasourceclassname test --datasourceurl test --minpoolsize=8 --maxpoolsize=32 --maxwait=60000 --poolresize=2 --idletimeout=300 --connectionvalidate=false --validationmethod=auto-commit --failconnection=false --description test sample_connectionpoolid)</pre> <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none">1. 実行するコマンドの文字数が 256 文字を超える場合は、マルチモードを使用してください。2. シングルモードを使用する必要がある場合は、OpenWindows コマンドツール (cmdtool) を使ってコマンドを実行してください。

管理インフラストラクチャー

この節では、管理インフラストラクチャーに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
6245376	<p>仮想サーバーの削除後に仮想サーバーの <code>obj.conf</code> が削除されません。</p> <p>デフォルトでは、仮想サーバーの設定ファイルは仮想サーバーの削除後にファイルシステムから削除されません。</p> <p>解決法</p> <p>削除された仮想サーバーの <code>virtual_server-obj.conf</code> ファイルを手動で削除します。</p>
4686003	<p>HTTP の QOS 制限が適用されません。</p> <p>サービス品質 (QOS) では、最大 HTTP 接続数と帯域幅を指定できます。これらの属性の制限値を超えると、クライアントに 503 エラーが戻されます。しかし、管理インタフェースを使って QOS を有効にすると、サーバーは QOS の制限を適用しなくなります。</p> <p>解決法</p> <p>QOS 機能をすべて有効にするには、仮想サーバーの <code>obj.conf</code> ファイル内のデフォルトオブジェクトの先頭に <code>AuthTrans fn=qos-handler</code> 行を手動で追加します。<code>qos-handler</code> サーバーアプリケーション関数 (SAF) と <code>obj.conf</code> 設定ファイルについては、『Developer's Guide to NSAPI』を参照してください。</p>
4740022	<p>新しいインスタンスサーバーを追加して起動すると、SNMP: END OF MIB メッセージが表示されます。</p> <p>インスタンスサーバーとサブエージェントをシャットダウンしないで新しいインスタンスを追加し、起動すると、END OF MIB メッセージが返されます。</p> <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none">新しいインスタンスを表示するには、サブエージェントとすべてのインスタンスサーバープロセスをシャットダウンします。各サーバーで、「監視」の「SNMP 統計収集を有効」をオンに設定します。その後、各インスタンスサーバーを再起動し、サブエージェントプロセスを 1 つだけ再起動します。サブエージェントがすでに実行中の場合は、これ以上起動しないでください。<code>Application Server</code> をインストールするときは、必ずマスターエージェントとサブエージェントを 1 つずつ使用します (全ドメイン、全インスタンスに共通)。

ID	要約
4865739	<p>server.xml 内のインスタンスポートのネガティブテストによって domains.bin が壊れます。</p> <p>ポート番号または IP アドレス、あるいはその両方に英字が含まれている場合は、新しいインスタンスを作成できないため、現在のインスタンスが管理不能になります。</p> <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none">1. server.xml ファイルとバックアップ用の server.xml ファイルを編集し、ポート番号または IP アドレス (あるいはその両方) を訂正します。2. keepmanualchanges=true オプションを使って asadmin reconfig コマンドを実行します。3. 管理インターフェースを使用し、「Administration (管理)」ツリーでインスタンス名を選択して、インスタンスを停止します。4. 管理サーバーとアプリケーションサーバーインスタンスを再起動します。

管理インターフェース

管理インターフェースを使用するときは、ブラウザがキャッシュからではなくサーバーから最新のページを取り出す設定になっているかどうかを確認してください。一般に、デフォルトのブラウザ設定では問題は発生しません。

- Internet Explorer では、「ツール」->「インターネットオプション」->「設定」を選択し、「保存しているページの新しいバージョンの確認」で「確認しない」が選択されていないことを確認します。
- Netscape では、「編集」->「設定」->「詳細」->「キャッシュ」を選択し、「キャッシュにあるページとネットワーク上のページの比較」で「しない」が選択されていないことを確認します。

この節では、管理用グラフィカルユーザーインターフェースに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4725473	<p data-bbox="315 314 1262 340">管理インタフェース のニックネーム一覧に外部証明書のニックネームが表示されません。</p> <p data-bbox="315 361 1302 475">Application Server 管理インタフェースを使って外部証明書をインストールした場合、外部暗号化モジュール上にインストールされた証明書を使って HTTP リスナーで SSL を有効にしようとする問題が発生します。証明書は正しくインストールされていますが、管理インタフェースに証明書のニックネームが表示されません。</p> <p data-bbox="315 493 391 519">解決法</p> <ol data-bbox="315 539 1293 699" style="list-style-type: none"> 1. 管理ユーザーとして、Sun ONE Application Server のインストールマシンにログインします。 2. HTTP リスナーと外部暗号化モジュール上にインストールされた証明書をリンクします。asadmin コマンドを実行します。asadmin コマンドの詳細については、asadmin(1M)のマニュアルページを参照してください。 <pre data-bbox="315 718 903 979">/sun/appserver7/bin/asadmin create-ssl --user admin --password <i>password</i> --host <i>host_name</i> --port 8888 --type http-listener --certname nobody@apprealm:Server-Cert --instance server1 --ssl3enabled=true --ssl3tlsciphers +rsa_rc4_128_md5</pre> <p data-bbox="334 982 486 1008">http-listener-1</p> <p data-bbox="315 1029 1293 1144">このコマンドは、証明書とサーバーインスタンスをリンクします。証明書のインストールは行いません。証明書は管理インタフェースを使用してインストール済みです。証明書と HTTP リスナーのリンクは確立されていますが、HTTP リスナーは非 SSL モードでリッスンします。</p> <ol data-bbox="315 1164 1289 1220" style="list-style-type: none"> 3. 次の CLI コマンドを使って、HTTP リスナーが SSL モードでリッスンするように設定します。 <pre data-bbox="315 1239 1182 1413">/sun/appserver7/bin/asadmin set --user admin --password <i>password</i> --host <i>host_name</i> --port 8888 server1.http-listener.http-listener-1.securityEnabled=true</pre> <p data-bbox="315 1432 1276 1487">このコマンドは、サーバーインスタンスのリッスンモードを非 SSL から SSL へ切り替えます。</p> <p data-bbox="315 1506 1090 1532">上記の手順が完了すると、管理インタフェースに証明書が表示されます。</p> <ol data-bbox="315 1553 1276 1576" style="list-style-type: none"> 4. これで、管理インタフェースを使って HTTP リスナーを編集できる状態になりました。

ID	要約
4760939	<p>SSL: certutil によって生成された自動署名証明書が「Certificate Nickname (証明書ニックネーム)」リストに表示されません。</p> <p>自動署名証明書が certutil によって生成されていると、管理インタフェースに「Certificate Nickname (証明書ニックネーム)」が表示されません。</p> <p>解決法</p> <p>自動署名証明書を使用する場合は、server.xml ファイルを手動で編集する必要があります。</p>
4991824	<p>管理コンソールから SSL を有効化した後、再起動するとタイムアウトとなります。</p> <p>解決法</p> <p>SSL を有効化した後は、インスタンスを再起動する代わりに、サーバーをいったん停止して起動します。</p>
4988332	<p>何の変更もしていないのに、「変更の適用が必要です」のアイコンが表示されます。</p> <p>管理コンソールでは、アプリケーションサーバーインスタンスのプロパティまたは設定を表示すると、設定がまったく変更されていないなくても「変更の適用が必要です」というアイコンが表示されます。</p> <p>解決法</p> <p>このメッセージは 1 回だけ表示され、アプリケーションサーバーに対しては何の変更も加えません。このメッセージが表示されたら、「変更の適用」を選択します。</p>
5011969	<p>Solaris x86 の場合に、管理インタフェースの HTTP リスナーと IIOP リスナーのページでエラーが生じます。</p> <p>解決法</p> <p>この問題は、特定バージョンの jss3.jar で発生します。2 つの回避方法があります。</p> <p>パッチレベル 115924-03、115925-03、115926-03、115927-03 では、SUNWjss パッケージを最新バージョンでアップグレードします。</p> <p>次の指示に従って、サーバーのクラスパスから jss3.jar へのパスを削除します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. server.xml を開いて編集します。2. クラスパスから usr/share/lib/mps/secv1/jss3.jar を削除します。 <p>明示的に変更していない限り、このエントリはクラスパスの最初のエントリです。</p> <ol style="list-style-type: none">3. server.xml を保存し、asadmin reconfig を実行します。4. サーバーインスタンスを開始する前に、jss3.jar の名前を変更する必要もあります。

サンプルアプリケーション

この節では、サンプルアプリケーションに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
5048279	<p>JDBC レルム認証サンプルのコンパイル前のタスクのセクションの手順 1 と 2 が不完全です。</p> <p>解決法</p> <p>適切な手順 1 と 2 は次のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none">1. PointBase データベースサーバーを起動します。 <p><i>appserver_install_root</i>/pointbase/server ディレクトリに移動し、StartServer.sh スクリプトを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none">2. PointBase コンソールを起動します。 <ul style="list-style-type: none">• <i>appserver_install_root</i>/pointbase/client_tools ディレクトリに移動し、PB_console.sh スクリプトを実行します。• データベースの URL は jdbc:pontbase:server://localhost/sun-appserv-samples です。• デフォルトの管理ユーザー名は security です。• デフォルトの管理パスワードは security です。 <ol style="list-style-type: none">3. PUBLIC.user_tbl が存在し、ユーザーを含んでいることを確認します。 <ul style="list-style-type: none">• 「カタログ」->「カタログ」メニュー項目に移動します。• データベースカタログ内で、PUBLIC、TABLES、USER_TBL ノードに移動します。• USER_TBL ノードを右クリックし、ポップアップメニューの「SELECT * FROM "PUBLIC"."USER_TBL"」をクリックします。

ID	要約
4739854	<p>asadmin を使ったリソースの配備方法の説明がありません。</p> <p>一部のサンプルのマニュアルには、asadmin コマンドを使ってアプリケーションを配備するようにと記述されているだけで、必要なリソースを作成する手順が記載されていません。</p> <p>解決法</p> <p>asadmin コマンドを使ってアプリケーションまたはリソースを配備できます。サンプルの build.xml ファイルからは詳細情報を取得できます。詳細情報は、asant deploy の実行結果からも確認できます。</p> <p>JDBC/BLOB の例の場合、次の手順で、asadmin を使ってリソースを作成します。ホスト名は jackiel2 とし、管理サーバーのユーザー名 / パスワード / ポートは、それぞれ admin/adminadmin/4848 とします。</p> <pre>asadmin create-jdbc-connection-pool --port 4848 --host jackiel2 --password adminadmin --user admin jdbc-simple-pool --datasourceclassname com.pointbase.jdbc.jdbcDataSource --instance server1</pre> <pre>asadmin set --port 4848 --host jackiel2 --password adminadmin --user admin server1.jdbc-connection-pool.jdbc-simple-pool.property.DatabaseName=jdbc:pointbase:server://localhost/sun-appserv-samples</pre>

ID	要約
4993620	<p data-bbox="318 243 1043 274">複数の XA 接続があるとき、afterCompletion() が false となります。</p> <p data-bbox="318 291 1299 404">samples/transactions/ejb/cmt/bank アプリケーションの改訂版を使用 - BankBean ejb は 2 種類のデータベース、1 つは当座預金口座、もう 1 つは貯蓄預金口座に接続します。oracle.jdbc.xa.client.OracleXADataSource データソース向けに設定した 2 つの接続プールが作成してあり、グローバルトランザクションが有効になっています。</p> <p data-bbox="318 421 1299 510">スタンドアロンのクライアントを実行し、振替、当座預金の残高確認、貯蓄預金の残高確認を行うと、次の 3 つのリモート呼び出しが発生します。transferBalance()、getCheckingBalance() および getSavingsBalance()</p> <p data-bbox="318 527 1299 616">すべてのデータベースオペレーションは正しく実行されていますが、getCheckingBalance() 呼び出しに対する afterCompletion は、committed=false となります。</p> <p data-bbox="318 633 708 657">たとえば、次のことが実行されます。</p> <pre data-bbox="318 677 1299 789">appclient -client /space/S1AS/installation/domains/domain1/server1/applications/j2ee-ap ps/transactions-bank_13/transact -name BankClient -textauth com.sun.jndi.cosnaming.CNCTXFactory iiop://localhost:3700</pre> <p data-bbox="318 808 1299 897">結果は次のようになります。複数の XA 接続で、データベースの読み取り操作のみ実行するステートフルセッション Bean の tx は成功していますが、afterCompletion() は false を返します。</p> <p data-bbox="318 914 391 939">解決法</p> <p data-bbox="318 958 826 982">現在の JTS の実装は、これをサポートしません。</p>

ID	要約
5016748	<p>Java クライアントを使った SFSB フェイルオーバーのサンプルアプリケーション実行について、説明が正しくありません。</p> <p>サンプルアプリケーションのマニュアルにある、SFSB フェイルオーバーのサンプルアプリケーションを実行する <code>java</code> コマンドが正しくありません。</p> <p>解決法</p> <p>Java クライアントでの <code>sfsbFailover</code> 実行について、正しい説明は次のとおりです。</p> <p>ACC なしのローカルまたはリモート RMI/IIOP ベースのクライアントで、<code>sfsbFailover</code> を実行します。</p> <p>ACC (アプリケーションクライアントコンテナ) のインタフェースなしで Java クライアントを実行します。ローカルマシン (<code>ashost</code>) または リモートマシンで実行できます。クライアントアプリケーションはコマンド行から実行します。</p> <pre>java -Djava.library.path=\$AS_INSTALL/lib:/usr/lib/mps</pre> <pre>-Dcom.sun.CORBA.connection.ORBSocketFactoryClass=com.sun.enterprise.iiop.EEIIOPSocketFactory -Dorg.omg.PortableInterceptor.ORBInitializerClass=com.sun.appserv.iiop.EEORBInitializer -Dorg.omg.CORBA.ORBClass=com.sun.enterprise.iiop.POAEBORB -Dorg.omg.CORBA.ORBSingletonClass=com.sun.corba.ee.internal.corba.ORBSingleton -Djavax.rmi.CORBA.UtilClass=com.sun.corba.ee.internal.POA.ShutdownUtilDelegate -classpath <CP> <ClientApp> java.naming.factory.initial=com.sun.appserv.naming.S1ASCtxFactory com.sun.appserv.iiop.loadbalancingpolicy=ic-based com.sun.appserv.iiop.endpoints=host:port,host:port</pre> <p>各変数の意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CP には、クラスパス用に <code>sfsbFailover.jar</code>、<code>appserv-rt.jar</code>、<code>appserv-ext.jar</code>、<code>appserver-rt-ee.jar</code>、<code>appserv-admin.jar</code> の 5 つの <code>jar</code> ファイルが含まれています。 <p><code>sfsbFailoverClient.jar</code> のファイルは、次の配備ディレクトリから現在のディレクトリにコピーされます。</p> <pre>install_dir/domains/domain1/server1/applications/j2ee-apps/sfsbFailover_1</pre> <p>ほかの <code>jar</code> ファイルは AS インストール <code>install_dir/lib</code> から現在のディレクトリにコピーされます。</p> <p>クライアントアプリケーションをリモートマシンで実行する場合は、<code>sfsbFailoverClient.jar</code> とほかの 3 つの <code>appserver jar</code> ファイルをクライアントマシンに移動する必要があります。ACC あり、または ACC なしのアプリケーションクライアントを実行する例として、<code>sfsbFailoverClient.jar</code> を使いましたが、このファイルには、ACC を使わない場合に最低限必要なもの以外のファイルも含まれています。ACC なしのリモートマシン上でこの例を実行するのに最低限必要なファイルは、<code>appserv-ext.jar</code> と、<code>sfsbFailoverClient.jar</code> から抽出した次のファイルです。</p> <pre>samples/ejb/stateful/simple/ejb/Cart.class - リモートインタフェース samples/ejb/stateful/simple/ejb/CartHome.class - ホームインタフェース samples/ejb/stateful/simple/ejb/_Cart_Stub.class - リモートスタブ samples/ejb/stateful/simple/ejb/_CartHome_Stub.class - ホームスタブ samples/ejb/stateful/simple/client/CartClient.class - クライアントアプリケーションのメインクラス</pre> <p><code>appserv-ext.jar</code> のファイルはクライアントマシンに必要です。このファイルには、クライアントが必要とする <code>javax.ejb</code> パッケージ、および必要とする可能性のある J2EE API の実装とインタフェースが含まれているためです。</p>

ID	要約
5016748 (続き)	<ul style="list-style-type: none"> • ClientApp とは、クライアントプログラムを表します。この例では次のものを指します。 samples.ejb.stateful.simple.client.CartClient • URL とは、ホスト名 (ashost など) および ORB ポート (3700 など) を持ったクラスタの一部として稼動しているアプリケーションサーバーのリストで、コンマで区切られたものを指します。次に例を示します。 ashost:3700,ashost:3701,ashost:3702 <p>このコマンドの完全な例は次のとおりです。</p> <pre>java -Djava.library.path=\$AS_INSTALL/lib:/usr/lib/mps -Dcom.sun.CORBA.connection.ORBConnectionFactoryClass=com.sun.enterprise.iiop.EEIIOPSocketFactory -Dorg.omg.PortableInterceptor.ORBInitializerClass=com.sun.appserv.iiop.EEORBInitializer -Dorg.omg.CORBA.ORBClass=com.sun.enterprise.iiop.POAEBORB -Dorg.omg.CORBA.ORBSingletonClass=com.sun.corba.ee.internal.corba.ORBSingleton -Djavax.rmi.CORBA.UtilClass=com.sun.corba.ee.internal.POA.ShutdownUtilDelegate -classpath sfsbFailoverClient.jar:appserv-ext.jar:appserv-rt.jar:appserv-rt-ee.jar:appserv-admin.jar samples.ejb.stateful.simple.client.CartClient java.naming.factory.initial=com.sun.appserv.naming.SIASCtxFactory com.sun.appserv.iiop.loadbalancingpolicy=ic-based com.sun.appserv.iiop.endpoints=localhost:3700,localhost:3701</pre> <p>このコマンドを実行する前に、LD_LIBRARY_PATH に \$AS_INSTALL/lib と /usr/lib/mps を組み込みます。</p> <p>対話型コンソールにより、SFSB、InitialContext、ホーム参照、およびリモート参照などの高可用性をテストできます。InitialContext を作成して、「Enter」キーを押します。参照は、ほかの利用可能なサーバーインスタンスにフェイルオーバーされます。ホーム参照やリモート参照についても同様に、フェイルオーバーの動作テストができます。</p>
5016656	<p>PointBase の起動スクリプトに対して、サンプルドキュメントが正しくないパスを指しています。</p> <p>startserver.sh のパスが誤って、<i>pointbase_install_dir/tools/server/startserver.sh</i> と書かれています。</p> <p>解決法</p> <p>PointBase の起動スクリプトへの正しいパスは、<i>pointbase_install_dir/client_tools/server/startserver.sh</i> です。</p>

ID	要約
5016647	<p>JWSDP 1.0_01 の Coffee Break アプリケーションでの Indent-amount 問題</p> <p>Coffee Break のサンプルアプリケーションを実行すると、次のエラーが表示されます。</p> <p>ERROR: output property 'indent-amount' not recognized</p> <p>解決法</p> <p>これは JWSDP 1.0_01 の既知の問題です。これを回避するには、JWSDP のバージョン 1.1 より新しいものを使用してください。</p>

ORB/IIOP リスナー

この節では、ORB/IIOP-Listener に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4743419	<p>IPv6 アドレスの DNS アドレス検索が失敗する場合、IPv6 アドレスでは RMI-IIOP クライアントが機能しません。</p> <p>IPv6 アドレスの DNS 検索が失敗する場合、IPv6 アドレスでは、RMI-IIOP (Remote Method Invocation-Internet Inter-ORB Protocol) のクライアントが機能しません。</p> <p>解決法</p> <p>IPv6 アドレスを検索できるように、配備サイトに DNS (Domain Name Service) を設定します。</p>

ID	要約
5017470	<p data-bbox="317 234 1330 303">Application Server から割り当てられるデフォルトの IIOP ポート番号が、ランダムに作成されます。</p> <p data-bbox="317 312 1330 373">ORB のリスナーまたは IIOP のエンドポイントが作成されるとき、IIOP のポート番号は、そのどちらが作成されるかによって変わります。</p> <ol data-bbox="317 381 1330 685" style="list-style-type: none"><li data-bbox="317 381 1330 512">1. 新しい ORB リスナーを作成する > 「指定する必要あり」を意味する * マークは付いていませんが、IIOP ポート番号を必ず指定してください。表示されるデフォルト値は 1072 ですが、サーバーのインストール時に作成されたデフォルトのリスナーのリスナーポート番号は 3700 です。<li data-bbox="317 520 1330 616">2. 新しい IIOP エンドポイントを作成する > デフォルトの IIOP ポート番号は 3600 と表示されます。ポート番号を指定せずにエンドポイントを作成すると、そのポートの値は null となります。<li data-bbox="317 624 1330 685">3. 新しいサーバーインスタンスが作成されると、デフォルトの ORB リスナーポート番号は任意の大きな値、通常は 30000 以上となります。 <p data-bbox="317 694 1330 737">解決法</p> <p data-bbox="317 746 1330 836">IIOP のポート番号は 32767 を越えてはなりません。もし、設定された値がこの範囲外である場合、フェイルオーバーの際に接続障害が発生します。サーバーに対して IIOP リスナーの設定を行うときは、ポート番号が確実にこの範囲内に収まるようにしてください。</p>

マニュアル

この節では、マニュアルに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
6489168	<p><addons_install>/se ディレクトリの README.txt ファイルに記されている手順を明瞭にするために、内容を変更する必要があります。</p> <p>README.txt の現在の内容は次のとおりです。</p> <p>Solaris 上での root ユーザーとしてのインストール</p> <ol style="list-style-type: none">1) CD の RootInstall ディレクトリから SUNWaspx をマシンのディレクトリにコピーします。2) SUNWaspx のコピー先ディレクトリに移動します。 <pre>\$ cd <addons_install>/ProxyPlugin</pre> <p>解決法</p> <p>README.txt に記されている手順は、正しくは次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none">1) CD の RootInstall ディレクトリから SUNWaspx をマシンのディレクトリにコピーします。 <pre>\$ cp -R <addons_install>/se/WebPlugins/RootInstall/SUNWaspx /var/tmp</pre> <ol style="list-style-type: none">2) SUNWaspx のコピー先ディレクトリに移動します。 <pre>\$ cd /var/tmp</pre>
6511489	<p>『Sun Java System Application Server Performance Tuning Guide』で、KeepAliveFlushes に関する情報が正しくありません。</p> <p>『Performance Tuning guide』には現在、次の情報が記載されています。</p> <p>KeepAliveCount が MaxKeepAliveConnections を超えたために、サーバーが接続を閉じなければいけなかった回数。この設定は調整可能ではありません。</p> <p>解決法</p> <p>この記述は、正しくは次のとおりです。</p> <p>Application Server は KeepAliveCount が MaxKeepAliveConnections を超えても既存の接続を閉じません。その代わりに、新しいキープアライブ接続は拒否され、KeepAliveRefusals 数が増分されます。</p>

ID	要約
6495372	<p>『Sun Java System Application Server Standard and Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 3 Administration Guide』(英語)または『Sun ONE Application Server 7 管理者ガイド』(日本語)の第13章「アプリケーションの配備」の「動的配備」の節で、クライアントがサーバーにアクセスしているときにユーザーが動的配備を試行した場合に起きる可能性のあるエラーについて警告されていません。</p> <p>解決法</p> <p>オンライン動的配備は、クライアントがサーバーに接続していないときにのみ実行することをお勧めします。アプリケーション配備処理中にクライアントがサーバーにアクセスすると、メモリーとファイルのデータ処理でエラーが起きる可能性があります。</p>
6412668	<p>『Application Server 7 Performance Tuning Guide』の「Configuring the File Cache」の節で、次の記述が誤っています。</p> <p>デフォルトでは、「転送ファイル」は Windows NT では有効であり、UNIX では有効ではありません。UNIX では、OS で PR_TransmitFile がネイティブでサポートされるプラットフォームで「転送ファイル」を有効にします。現時点では、HP-UX や AIX などの OS がこれに該当します。その他の UNIX/Linux プラットフォームについてはお勧めしません。</p> <p>解決法</p> <p>この記述は、正しくは次のとおりです。</p> <p>デフォルトでは、「転送ファイル」は Windows NT では有効であり、UNIX では有効ではありません。UNIX では、OS で PR_TransmitFile がネイティブでサポートされるプラットフォームで「転送ファイル」が有効です。現時点では、Solaris、HP-UX、AIX などの OS がこれに該当します。その他の UNIX/Linux プラットフォームについてはお勧めしません。</p>
6067211	<p>Application Server 7 2004Q2 のメモリー持続性のための sessionFilename の動作が Application Server 7.0 シリーズから変更になっていることが記載されていません。</p> <p>『Developer's Guide to Web Applications』のマネージャープロパティーテーブルの sessionFileName プロパティーは次のようになっているべきです。</p> <p>状態の保持が可能な場合は、アプリケーションが再起動されるまでセッションの状態が保持されるファイルの絶対または相対パス名を指定します。相対パス名は、この Web モジュールの一時ディレクトリに対して相対的です。ファイルの実際の名前は、コンテキスト情報が先頭に付けられます。たとえば、fileName に /tmp/Session と指定し、Web アプリケーションのコンテキスト名が MemoryPersistenceApp の場合、セッションの状態は、/tmp/MemoryPersistenceAppSession に保持されます。</p> <p>これは、セッションマネージャー要素の持続型属性がメモリーである場合にのみ適用されます。</p>

ID	要約
5060001	<p>「Developing JAX-RPC Web Services」の章のサンプル <code>config.xml</code> に誤植があります。</p> <p>『Developer's Guide to Web Services』の「Developing JAX-RPC Web Services」の章にある、サンプルの <code>config.xml</code> で <code>targetNamespace</code> と <code>typeNamespace</code> の <code>S</code> が間違っていて大文字になっています。</p> <p>解決法</p> <p><code>targetNameSpace</code> は <code>targetNamespace</code> であるべきです。</p> <p><code>typeNameSpace</code> は <code>typeNamespace</code> であるべきです。</p>
5050378	<p>『Sun Java System Application Server Enterprise Edition 7 2004Q2 入門ガイド』で間違ったボタンラベルが指定されています。</p> <p>第1章にある「セッション持続性のタイプについて」で、手順を完了するために「保存」ボタンを使用すると誤って記載されています。</p> <p>「保存」ボタンはありません。「了解」ボタンを使用します。</p>
6267772	<p>Borland Optimizelt の構成方法が間違っています。</p> <p>『Sun Java System Application Server Developer's Guide』で Borland Optimizelt Profiler の構成方法の説明に誤植があります。</p> <p>解決法</p> <p>「プロファイラ」タブの「JVM」オプションで次のパラメータを使用します。</p> <pre>-DOPTITHOME=Optimizeit_dir -Xbootclasspath/p:/Optimizit_dir/lib/oibcp.jar -Xrunpri:startAudit=t</pre>
5039674	<p>asadmin create-jdbc-connection-pool マニュアルページにエラーがあります。</p> <p><code>--restype</code> の説明が現在正しくありません。</p> <p>データソースクラスで両方のインタフェースを実装する場合は、明確にするために <code>--restype</code> を指定する必要があります。このオプションに正しい値が指定され、指定されたインタフェースがデータソースクラスによって実装されていない場合、エラーが生成されます。このオプションにはデフォルト値はありません。</p> <p>解決法</p> <p>データソースクラスが複数の JDBC インタフェース <code>javax.sql.DataSource</code>、<code>javax.sql.ConnectionPoolDataSource</code>、または <code>javax.sql.XADataSource</code> を実装する場合、明確にするために <code>--restype</code> を指定する必要があります。このオプションに正しい値が指定され、指定されたインタフェースがデータソースクラスによって実装されていない場合、エラーが生成されます。</p>

ID	要約
5010038	<p>管理コンソールのオンラインヘルプに表示されるセキュリティーレルムの情報が正しくありません。</p> <p>Application Server の管理コンソールで、「Application Server インスタンス」>「Server1」>「セキュリティー」>「レルム」の順に選択すると、ヘルプファイルに file、ldap、certificate、solaris という誤ったレルムが表示されます。</p> <p>これは正しくありません。実際のレルムは file、ldap、certificate、agentRealm です。Application Server のインストーラでは、セキュリティーレルムはデフォルトで agentRealm に設定されます。</p>
6190702	<p>hadbm help は古い情報を提供します。</p> <p>解決法</p> <p>最新の情報については、『Sun Java System Application Server Standard and Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 3 Administration Guide』(http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-2783) の「Administering the High-Availability Database (Enterprise Edition)」を参照してください。</p>
4970418	<p>create-ssl のマニュアルページで、--certname と cert_name の間にスペースが入っていません。</p> <p>解決法</p> <p>--certname オプションの正しい構文は次のとおりです。</p> <pre>--certname cert_name</pre>
4993601	<p>Sun ONE Application Server 7, Enterprise Edition から、古いヘルプファイルが表示されません。</p> <p>解決法</p> <p>以前に Sun Java System Application Server の異なるバージョン (Sun ONE Application Server 7, Enterprise Edition など) をインストールしたことがある場合は、MANPATH 環境変数が現在のインストールディレクトリを指していることを確認してください。</p>
5008199	<p>「delete-jvm-options」 マニュアルページの例部分のエラー。</p> <p>この例は、正しくは次のとおりです。</p> <pre>asadmin delete-jvm-options --user admin --password adminadmin --host localhost --port 4848 --instance server1 -- "-Djava.security.policy=/var/opt/SUNWappserver7/domains/domain1/serve r1/config/server.policy"</pre>
なし	<p>製品 CD の『Installation Guide』 PDF ファイルが壊れています。</p> <p>解決法</p> <p>『Installation Guide』の HTML バージョンを使用します。</p>

再配布可能なファイル

Sun Java System Application Server バージョン 7 2004Q2 Update 6 には、再配布可能なファイルは含まれていません。

問題の報告およびフィードバックの方法

Sun Java System Application Server に問題が発生した場合は、次のいずれかの方法で Sun のカスタマサポートにお問い合わせください。

- オンラインの Sun Software Support Service
<http://www.sun.com/service/sunone/software>

このサイトには、Knowledge Base、オンラインサポートセンター、ProductTracker へのリンクと、保守プログラムおよびサポートに関する問い合わせ先電話番号が記載されています。

- 保守契約を結んでいるお客様の場合は、専用ダイヤルをご利用ください。

最善の問題解決のため、サポートに連絡する際には次の情報をご用意ください。

- 問題が発生した箇所や動作への影響など、問題の具体的な説明
- マシン機種、OS バージョン、および、問題の原因と思われるパッチやその他のソフトウェアなどの製品バージョン
- 問題を再現するための具体的な手順の説明
- エラーログやコアダンプ

Sun Java System Application Server について討議されている、次のようなインタレストグループに登録するのも便利です。

<http://forum.java.sun.com/forum.jspa?forumID=136>

コメントの送付先

Sun では、マニュアルの改善に努めており、お客様のご意見、ご提案をお待ちしております。Web 上のフォームでご意見をお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

指定の場所に、マニュアルの正式な書名と Part No. をご記入ください。Part No. は、7 桁か 9 桁の番号で、マニュアルのタイトルページまたは最初のページに記載されています。たとえば、このリリースノートの Part No. は 820-3704 です。

補足情報

Sun Java System についての有益な情報は、以下のインターネットアドレスから入手することができます。

- Sun Java System マニュアル
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/app.srv>
- Sun Java System プロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunjavasystem/sjssservicessuite.html>
- Sun Java System ソフトウェア製品とサービス
<http://www.sun.com/software>
- Sun Java System Software Support Services
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
- Sun Java System サポートと Knowledge Base
<http://www.sun.com/service/support/software>
- Sun サポートおよびトレーニングサービス
<http://jp.sunsolve.sun.com/>
- Sun Java System コンサルティングとプロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun Java System 開発者情報
<http://developers.sun.com>
- Sun 開発者サポートサービス
<http://www.sun.com/developers/support>
- Sun Java System ソフトウェアトレーニング
<http://www.sun.com/software/training/>

Copyright © 2007 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、この知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> の一覧に示されている米国特許、および米国をはじめとする他の国々で取得された、または申請中の特許などが含まれています。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

使用は、使用許諾契約の条項に従うものとします。

本製品には、サードパーティーが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいて開発されている場合があります。

Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用されている、米国および他の国々における同社の商標または登録商標です。